

め

めあたらし (目新) 【**形容詞**】 初めて見る感じである。珍しい。[会話] 今まで 見た事な (が) 無いもん (物) を 初めて見るのな (が) メアタラシ言うねやんかい (言うのです)。めえ (目) で 初めて見るもんで (ので) メアタラシ言うのな (です) 珍しい言う事やなあ (です)。

めあて (目当) 【**名詞**】 心づもり。心の中で思っていること。目的。[会話] メアテな (が) 有って 和楽荘行くんやれ (のだ)。なんの メアテも無しん (に) あんげん (あんなに) 行くねやかなあ (行くのだろうか) 言う時も有るし。心づもり言うんか 目的言うんか (のか) 目的な (が) 有って メアテな (が) 有って 行くんやれ 言うて。

めあわす (めあはず) 【**他サ下一**】 1) 二つのものを完全に混ぜ合わす。2) 夫婦にさせる メアワス (妻合) の義 (大言海) [会話] 1) しゃかんや (左官) と 土こねや (は) しょおんあわん (気が合わない) 言うて、すさ (切った藁) と土と えごと (完全に) こねて メアワスと ええんけど (よいのだが)。

めい めいはめえと発音される事が多い

めいこ (めいこ) **姪子** 【**名詞**】 姪。めえこ。めいの訛めい。メオヒ (女生) の約、或はメオヒ (女甥) の約 (大言海) [会話] メイコ おいこ。男のこお (子) は おいこ。

めいしゃ (めえしゃ) 【**名詞**】 眼科医

めいしょ (めえしょ) (名所) りっぱなさま。美しいさま。名所 (美しい所、名高い所) よりの転義か (志 (片田)) [会話] メンショ メイショや (だ) 言うてなあ (言います)。メイショ言やええねけど (言えよのだが) メンショやなあ (だ) 言うて。此の花 まあ (感動詞) 綺麗で メンショやなあ (だ) 言うて、立派なの (のを) 言う (言います)。メンショに咲いとんぬ (て居るのだ) こやれ (これ) 言うて。きもん (着物) も おおた (おお) メンショななあ よおそろて (よく揃って) 言うて。そろて (揃って) 着とると (着て居ると) メンショなよおななあ (ようだ) 言うて。

めいた (目板) 【**名詞**】 1) 板。板扉などを横につなぐ時、つなぎ目をふさぎ、同時に接続も行う補助板。(員) 2) 目板瓦の略 (桑郡、桑市) 3) 慢性結膜炎 [会話] 3) メイタガアラ (瓦) 言うて、めえな (目が)

痛い人はなあ 昔や (は) とんとめな (慢性結膜炎が) よけ (沢山) はやりおってなあ (流行して居て)、そすと (すると) あや (彼は) とんとめや (だ)、メイタガアラ うつと はざん (いけない) 言うてなあ、ペえペえ 言うて つばき (唾) 吐いてなあ しよおつたね (して居たのです)。2) そして かあら (瓦) も 有るしなあ、メイタガアラ 言うて かあら の事も言うけど (が) 1) 板囲いや (とか) なんや しといて (しておいて) 有る板も メイタ 言うなあ 外囲い をなあ。

めいたがあら 【**名詞**】 1) 慢性結膜炎。トラホーム

2) 平瓦 普通の屋根を葺く瓦 めいた参照

めいち 【**名詞**】 海魚 めいちだい いち参照 (志、鳥、南、熊)

めいっばい (目一杯) 【**名詞**】 【**形容詞**】 1) 精一杯。

2) 見える限り。めいっばい参照 [会話] 2) メイッパイ 遠いところ (所) へ いたて (行ってしまつて) 見えやせん (見えない) とか、メイッパイ 開げまくつとる (開けている) とか、見える限り言う事やなあ (です)。1) そして あきない (商売) する時 メイッパイん (に) しとかんかい (しておきなさい) まけとかんかい (ておきなさい) 言うて。

めいめいぜん (めえめえぜん) (銘銘膳) 【**名詞**】 一人前宛に分けた膳部。[会話] メイメイ。めんめん言うなあ (言います)。めんめん こおじ 言うて、メンメンゼンや (だ) 言うて、別々ん (に) すんのを (するのを) めんめんや (だ) 言うて。めんめん こん (に) しよおやんか (しましよう) 言うて 別々ん (に) しよおや (しましよう) 言う事を。めんめん 言うのは 一人一人 言う意味や (です)。別々ん (に) 一人一人 すんのを (するのを) めんめんや (だ) 言うて、めんめん こに しよおや (しましよう) 言うて、結婚式や なんかの時 一人前 ずつの ぜんぶ のつくの メイメイ 膳言うなあ (言います)。

めうえ (めうへ) (目上) 【**名詞**】 自分より年令、地位の高い人

めうじ 【**名詞**】 名氏 姓

めうつり (目移) 【**名詞**】 どれこれ選ぶのに迷う (志 (布施田))

めえ 【**名詞**】 めの音の二拍化 目。光の刺激を受ける感覚器。(志 (布施田、甲賀)、鳥、桑郡、員、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、久、松、多、阿、張、名、度、伊、

北、尾、南、熊)

めえ【名詞】 芽。種子から出たばかりの草木、又植物の一部分から発生し未だ未発達の状態に有る物で花、葉、枝となるもの。三重県上記地区と同じ。[会話] きい (木) の メエ (芽)、芋の メエ (芽)、皆、出て くんの を (来るのを) メエや (芽と) 言うて。花でも なんでも (総て) 短こお (かく) 言わんと (言わずに) なごお (長く) メエや (芽だ) 言うて。 メエ (芽) 芽ぐんで来て めぎんで来たよお (来ました) 言うて、 孕むと (妊娠すると) あや (彼女は) めぎんどんねてない (で居るそうだ) 言うて、妊娠した事も めぎんどる (で居る) 言うし、 なた (鈍) かずいとんねてない (担って居るのだそうだ) 言うて つわりな (が) した来た頃 ん (に) になると めぎんどんのかして げえげえ (嘔吐) 吐いて まあ言うて。

めえ【名詞】 目。隙間。めの音の二拍化 [会話] つぶもん (雑穀) 入れたり こお (粉) の もん (物) 入れたり メエもってく (もれて行く) よおなもん (物) 入れおった (入れました)。

めえ【名詞】 若布。褐藻類。こんぶ科の海藻。茎は単一で比較的短く、扁円で此れは更に上方に数十種のびて葉の中脈をなし、葉は巾広く卵形で羽状に切れ込み有り、やや薄く黄褐色で両面平滑。(志(越賀、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥) [会話] 若布の事を メエ言うし (言います)。

めえ(めひ)【名詞】 姪 自分の兄弟姉妹の生んだ女の子 (三重県全域)

めえ【感動詞】 幼児を叱る時 駄目だ (阿、張) [会話] わるうのを (叱るのを) メエ 言うてなあ、 そや (それ) とおやんな (お父さんが) おっちど (怖いぞ) メエしてくんど (来るぞ) 言うてな、 こらら (子供) を叱る事を。

めえあく 1) 目覚める。(志、鳥(相差)) 2) 運が向く [会話] 1) 夜中 ん (に) めえな (目が) 覚めて言うて。 しょんべしいん (小便しに) 起きた や (ら) 目な (が) 覚めて 眠やれんで (眠れなくて) 言うて。朝 起きんななあ (起きるのは) メエ アイて 起きた。

めえいっぱい 1) 見える限り(志(布施田)) 2) 精一杯 [会話] 1) メエ イッパイ言うて 引つ張らんと (ずに) めいっぱい 言うて。 めいっぱい 遠いとこ (所) いたて (行ってしまつて) 言うたり。見える範囲。見える限り。 目一杯 (めいっぱい) 遠いとこ (所) いたて 見えやせん (見えない) とか 目一杯 開げまくつとる (さがして居る) とか、 ひろを (広

く) 広げる事なあ (です)。 2) あきない (商売) や、 なんやの時 負けて貰うや (とか) なんや (なにか) の時 メエ イッパイ ん (に) しとかんかれ (しておきなさい) とか言う 時んなあ (に)、まあ 一杯にしとけえ (しておきなさい) メエ イッパイ 言うて。 もつと 負けとけ (ておけ) 言うたり すんの (するのを) メエ イッパイに しとかんかえ (しておきなさい) 言うて。此の時 出来るだけ。

めえかける 1) 引き立てる 2) 将来を囑望して居る 3) 見定めている 4) 援助する

めえかづき【名詞】 若布の採取。(志) [会話] 若布採りの事を メエ カヅキ 言うて 潜る事を かづく言うんやんかえ (言うのです)。 メエ カヅキ や (だ) てんぐさ かづきや (だ) さざえかづきや (だ) 言うてなあ、 潜る事を かづく 言うの。

めえがとぼつく 目がかすむ 見えぬくい

めえきりがま【名詞】 1) 海中で海女が海藻を切る鎌。(志(片田)) 2) 舟上から若布を獲る時に使う長い柄のついた鎌 [会話] 2) メエ キリガマ 言うて、 めえ (若布) 切る鎌は なんごお (長く) して有つてなあ。 こいな (こんなに) なあがいの おを (長いのを) さわい (竿に) 付けて メエ キリガマ や (だ) 言うてなあ。舟から 覗いておつて (居て) 採る人 らな (が) その鎌使うの なあ (です)。

めえくさぐ 1) 死ぬ 2) 目をつむる [会話] 2) めえ ふさぐ めえ つぶ ん (る) のを、 クサグ 言うて。 メエ クサ ンドレ (でおれ) 言うて ふさぐ 言わんと (言わずに) クサグ 言うてなあ。 わり (悪い) 事しとると (していると) ちよいと (少し) メエ クサ ンドレ エ (でいて下さい) 言うてなあ。 わり 事 隠すのん (に)、まあ メエ クサ ンドレ イテ (でおいて) 貰え 言うてなあ。 1) 死んでた (で行つた) 時も メエ クサグ 言うて、 めえ つぶつた 言う人も有るしなあ。 そやけど (しかし) 此処らの人 ら しもてた (終つてしまつた) 言うてなあ。

めえくらます 誤魔化す。[会話] 誤魔化す言うの なあ (です)。秤の めえ (目) を いっしょ (一升) 有つても はちごや (八合だ) 九合や (だ) とか言うて ほんと (本当) の事 言わせんのを なあ (言わないのを) メエ クラマス 言うの なあ (です)。

めえげつ(めいげつ)【名詞】 名月

めえこ(めひこ)【名詞】 姪子。自分の兄弟姉妹の生んだ女の子。[会話] めいこ (姪) 言うのを なあ メエ コ 言うてなあ メエ コ おいこ (甥) 言うて。

めえこお 嘘。臉を開閉して無言とする合図。[会話] メエコオやどお (だぞ) 言うてなあ、嘘やどお (だぞ) 言う事をなあ めえ (目) ぱちぱちすると 嘘にする事やどお 言うのをなあ メエコオにしょおや (しましょう) めえをぱちぱち叩くとなあ。

めえこぼる 目を配る。注意して見ている。[会話] メエコバル言うのは、あっちや (あちら) も見い こっちや (こちら) も見い すんのな (するのが) メエコバル。

めえさい (めいさい) 【名詞】 明細 請求書

めえさんかくにする 1) 一生懸命にする。わき目もふらずする 2) 非常に怒って居るさま。[会話] 1) 喰うて喰うて あんな (彼が) 喰うの みといてみよまあ (見て見なさい) あや (あれ) メエモ (目も) サンカクン (に) シテ 喰とんね (食べて居る)。2) 怒る時でも メエ サンカクン (に) シテ 怒って、怒りはれとんねよお (て居るのだ)、ものすごお (大変) 怒とんの (て居るのを) 怒りはれとる 言うて。メエサンカクン (に) シテ 怒とんね (て居るのだ)。あの人な (が) まあ メエ サンカクン (に) シテ 怒って来て言うて。そばめん (に) する事を 三角 言うんやろなあ (言う)。めえ (目) ひっからかして (光らして) めがしら (内嘴) あげて 目尻 (外嘴) して、ねがめんのを (睨むのを) そばめん (に) なるやんかい (なります)。蕎麦な (が) 三角 (に) なるやんかい (なります)。そやもんで (それで) 例えてあんねやろなあ (有るのでしょうか)。蕎麦目ん (に) するのを、三角にして言うてなあ (言います)。1) 仕事に一生懸命の時も 一生けんめ (懸命) で メエ サンカクン シテ 仕事しとんねよお (して居るのだ) 言うて。めえ (目) もなんも 三角 (に) して 此れ こしらえたねんなあ (作りました) 言うて むつかし (難しい) 仕事したもんで (ので)。

めえしゃれ 丸見え。みえしゃれ、しゃれはされ (曝) か (志 (布施田)) [会話] 全部見えん (る) のをなあ、メエしゃれ言うの (のです)。家ん (の) 中も 道のはたやもんで (傍なので) メエしゃれやあれ (だ) 言うて、家ん (の) 中も 皆、見える言う事をなあ。

めえしよ 【形容詞】 めいしよに同じ (志)

めえしん 【名詞】 迷信。めいしんの訛。現代の科学的見地から見て、不合理であると考えられる事を信じる事。[会話] 迷信言うのを メエシン 言うね (言うのです)。

めえじん 【名詞】 名人。一芸一道を極めた人。めいじん (名人) の訛 [会話] メエジン 言うな (のは) なん

やかや (いろいろ) 物すんのん (するのに) 上手な綺麗な事すると おおた メエジンやなあ (だ) 言うてなあ。

めえすえる 目を動かさないうで一点をみつめる。怒ったり、酒に酔ったりした時の表情。[会話] 酒飲みな (が) 酒 飲んで みずのめえみたよん (鯨の目のように) して、メエエテ来るやんない (でしょう)。あいな (あんなのを) まなこ (目) 据えて来たれ (来た) そやれ (それ) 酔おて来たや (酔って来たら) 言うてなあ。人 ねがめる (睨む) 時もなあ メエエテねがめとる (睨んで居る) 言うて、見つめとる (ている) 言うのをなあ 睨めとる 言うのをなあ ねがめとる 言うて。

めえずし 【名詞】 御飯に味噌をそえ、湯通しした若布、或は少しあぶって緑色になったもので包んだもの。[会話] 若布をなあ ほおい (棒へ) さいて (刺して) ひい見せて (火であぶって) したると (してやると) まっさおんなんねてや (真っ青になるのです)。それい (へ) 味噌べったり 塗といてなあ (ておいて) 飯入れて くるくと巻いといて (ておいて) 丸噛み、メエズシ。めえ (若布) は ひい見せても (火あぶっても) やいこおいね (柔らかいのです) 採って来て干してねえよってなあ (無いから)。

めえすった 1) 失敗した 2) 見込み違いをした (志 (布施田))

めえする 見込み違いをする。失敗する (上、阿) [会話] 目違い言うのを メエスル言うのなあ (です)。

めえする 叱る

めえた 見えた。[会話] 見えた見えた 松原ごしに。見えた言うのを、メエタ言うの。誰それな (が) あしこから (あすこから) 来た言うのをなあ。誰それな (が) あしこい メエテ来たれ (来ました) あやれ (あれ) 言うてなあ。沖に舟な (が) メエトル (見えている)、大島の沖ん (に) 舟な (が) メエテ来たな (見えて来たのは) 家の舟やねえんか (で無いのか) 言うたりなあ、沖にメエタ (見えた) は 親船や (大船だ) 言うてなあ 見える言うのを メエル言うの。

めえたか 見えましたか (志 (立神))

めえちゅう (めいちゅう) 【名詞】 命中。目当てとするところに当たること。めいちゅうの訛 [会話] 一発メエチュウやなあ (だ) 言うて 一発で当たった言うのなあ (です)。

めえつけ 【名詞】 目付。監視役。子守など監視すること。[会話] 目付け。目付けにたので (頼んで) 来た、メ

エツケしといてくれ言うて、子供らを、みといて くれ (見ておいて下さい) 言うのを。メエツケ言う人も有るしなあ。子守りとか 監督みたよんなあ (のように) ばん (番) してくれよお (下さい) 言うのをなああの人 ばん (役目) に、たのだ (頼んだ) 言うの (のを) メエツケたのだ 言うてなあ。

めえつける じつと様子を見る。うかがう。気をつけて見る。[会話] あれん (あれに) メエツケトンネ (ているのだ) あんほしなあ (あれが欲しい) おもて (思って) あればっか (ばかり) メエツケトンネ (ているのだ)。嫁さん貰うん (の) でも、あの子な (が) ええもんで (よいので) あの子ん (に) はよっから (早くから) メエツケトンネテワレ (ているそう) 言うしなあ。見守とる (ている) 見張とる 言う事やわいなあ (です) メエツケル 言うのは 様子うか ごとのも (伺っているのも) メエツケル 言うて 逃げてかんか (て行かないか) 見とれよお (見ていなさい) 言うて 鳥こおととも (飼っていても) しや (それ) 逃がしたんよお (てやるな) メエツケトレヨオ 言うてなあ。

めえつぶる 1) 見て見ないふりをする。咎めない。2) 死亡する。3) 目を閉じる。4) 我慢する。[会話] 1) めえ (目) くさんどんのを (閉じて居るのを)。こやまあ (此れは) ちよいと (少し) 悪りかったけど (悪かったが) メエツブツイテクレ (つむっていて下さい) 言うて 言う時も有るしなあ (有ります)。4) 物がたかい (高価) のを まけて貰う時 でも メエツブツ 安う (安く) してくれ (下さい) 言うて言うし (言います)。許してくれ言うのを メエツブツ クレ 言うて。メエツブツ 安う (く) してくれ (下さい) 言うて、買う時 そいな (そんな) 時も有るし。仕事も悪り事な (が) 有っても こやまあ (此れは) あんまり (充分) ええ (よい) 行きやねえけど (でないが) ちよいと (少し) メツブツイテクレ 言う時も有るし。こらえてくれ (許して下さい) 言う事。メエツブル言うて。2) 死んでた (で行った) 時ん (に) メエツブル。メエツブツ言うて 死んでた時ん (に)、今し (今) メエツブツ 言うて。メエねぶる 言うのは 寝たよおん (に) 目 くさんでしとんの (ふさいでして居るのを) メエツブツ (眠って行った) 言うて。死んでた言う事を 寝てた (寝て行った) 言うよおな意味やわい (です)。

めえでみて 実際に見て確かめる (志 (布施田))

めえど (めいど) 【名詞】 冥土 亡者の行く所 めいどの

訛

めえとる 見えて居る。めえた参照

めえとんね 見えて居る。見えて居るのだ [会話] きれとな (割れ目が) ふっこおて (深く) 取られんで (取れなくて) おおのみつこた (使った) 言うて。メエトンネけど (が) てえ (手) も たらわせん (届かないし)、体は 入ってかれやせん (入っていけない) そいな (そんな) 時ん (に) きれとなふっこおて おおのみつこた 言うの (のです)。

めえなあつそおなる 目に沢山のごみが入る

めえなかつたい 夜が更けても眠くならない。子供が遅く迄起きて居る。[会話] メエナ カッタイ 言うのは、ねぶたねえ (眠くない) 人を いつ迄 起きてしとんの (して居るのを)、寝汚いの (のを)、メエナ カットオテ (くて) いつ迄 起きとられ (て居る) 言うて。こげんも (こんなにも) 目な (が) カッタイも んかいなあ (ものか) 此のこな (子は) 言うて。寝てけ (行け) 言うても ねぶたのおて (眠くなくて) いつ迄 起きとると (て居ると) 早よ (早く) ねやええ ねけど (寝ればよいのに) ねぶたのおて 言うて。

めえなくれてく。めえなくれる 目が見えなくなる。目がつぶれる。(志 (布施田)) [会話] ごとひき (糞) のちい (血) 飛ばすと メエナクレテク 言うて 水ん (の) 中で 頭おとすやんかな (切る)。

めえなさえる 感情がたかぶり眠れない (志 (布施田))

めえなさめる めえあくに同じ。1) 目が覚める 2) 改悛する

めえなしぶくる 眠くて目がしょぼしょぼする。[会話] ねぶたい (眠い) 時ん (に) なんやら (なにか) めえな (目が) くさんでくよおんぼつか (ふさいで行くようにばかり) してくんのを (来るのを) メエナシブル 言うんなあ (言うのです)。

めえなすいなる 目が疲れる。[会話] メエナスイナル 程 仕事する言うの (のです) 疲れる言うんやろなあ (言うのでしよう)。

めえなでやせん (芽) 出世しない。巡り合わせが悪い。儲からない。めえなねえ参照 [会話] 商売しても けえも (少しも) メエナデヤンデ (出なくて) 合わせん (儲からない)。

めえなでる 成功する。[会話] めえな (目が) 出た言うて、商売でも 繁盛して来ると メエナデル。芽な出て とんとん拍子 や (だ) 言うて。ほいて (そうして) 芋の芽な (が) 出たとか 木の芽が出たとか 発芽する事なあ (を) メエナデル 言うて。

めえなない。めえなねえ 1) 芽がない。運が悪い。
2) 心を奪われて思慮分別をなくす。夢中になる。
3) 大好物で有る(志(布施田)) [会話] 1) メエナ ナイ。博打打っても 当たらんと(ないと)今日は メエナ ナイ 負けたよお (負けました) 言うて。商売しても けえも (気、少しも) メエナ デヤン 合わせん (合わない、儲からない)。商売に合わん事を メエナ ナイ 言うて。めえな出で あの家や ははぼきや れ (盛運だ) 言うしなあ (言います)。

めえなはやい 1) 周囲をすばやく見て見当をつける。早く見つけ出す。2) 少しの事で目覚める [会話] 2) ねとでもなあ (寝ていても) かたつと すると ぱつと めえ (目) 覚ますの (のを) おた メエナ ハヤイ なあ言うなあ (言います)。めえ (目) 覚ますの (のが) 早い人 をなあ メエナ ハヨオテ (早くて)。1) 人を ちよいと (少し) 見るのも なあ 物 見つけん のおも (るのも) メエナ ハヤイ なあ言うて、探しもん すんのん (物するのに) どいらいさぞい (大変機敏な) にげな (人が) あんなあ (有ります) あいな の (あんなのを) メエナ ハヤイ 言うなあ。

めえなまう 1) 目がくらむ。めまいがする。2) 非常に忙しい。[会話] 1) 目眩すん (る) のを メエナ マウ、目眩 立ちぐらみ言うやんかい (言います)。

めえにち(めいにち) **【名詞】** 命日。人が死んだ日に当たる毎月、または毎年その日。めいにちの訛 [会話] 死んだひい (日) メエニチ。

めえねじ **【名詞】** 舟上から若布を竿で採る事。[会話] メエネ ジ言うて、さわい (竿に) 金のおを (のを) つけといて (つけておいて) 採んの (るのです) 舟から 覗いておつてなあ (居て)。

めえねぶる(目眠る) 1) 目をつぶる。2) 死亡する。3) 黙認する。[会話] 2) 死んだ 今し (今) メエネ ブツとこや (所です) 言うて 死んでくと (死んで行く) と)。

めえのくい 見えぬくい。前に障害物が有ったり、眼が悪いためよく見えない。[会話] 見えぬくい 言うのを なあ メエノクイ 言うの (のです)。めえな (目が) めえやせんわれ (見えません) 言うね (言うのです)、見えない 言うの (のを) めえやせん 言うの (のです)。めとぼ めえな (目が) メエノクイ のを めとぼや (だ) 言うの なあ (です)。

めえのしょうがつ **【名詞】** 珍しい物、貴重なものを見た時。

めえのとと **【名詞】** 瞳孔。まなこ参照 [会話] 海でお

ぼれたり (溺れたり) すると、メエノトト な (が) 開いとるもん (開いているから) はざおかい (駄目だ) 言うて。

めえのとど **【名詞】** 眼球内の粘液 [会話] か と(鯉)の目 抜いて ひゅつと 引きずり込むと (嚙り込む) と そのめえ (目) から よだれな (粘液が)、メエノトト な (が) 流れて そんな (それが) 美味いんてわい (美味いそうです)。

めえのみち **【名詞】** 若布の葉の中央を通る厚い部分。茎(志) [会話] めえ (若布) の真ん中 ん (に) あんの (有るのを) メエノミチ や (だ) 言うて なあ まんとめやもん で なあ (巾広の若布なので) みちな (が) ひろおいのな (広いのが) 有つて なあ、みち だけ 取つて なあ とろり (とろろ) して 食うて めえな (が) 干して 有ると メエノミチ を 皆、切つて きおつた (切つて行きました) とろり して 食うても ええし (よいし) 生で 食うても 美味いし。

めえはとる 見張りしている(志(布施田))

めえひつからかす 1) 睨む 2) 監視する 3) 癡癡を起す

めえふさぐ 1) 目を閉じる。2) 死ぬ。3) 黙認する [会話] 1) つぶん (る) のを なあ、メエ フサンドレ 言うて、おんな (俺が) 此れしたるうち (してしまう間) めえ フサンドレ ヨオ (で居なさい) 言うて なあ。

めえぶつ(めいぶつ) **【名詞】** 名物。その土地特有の名高い産物。土地の名産品。めいぶつの訛 [会話] 伊勢 の メエ ブツ 赤福。 メエ ブツ 美味いもん (物) 無し 言うて なあ その土地 の 珍しもん (物) を なあ メエ ブツ や (だ) 言うて なあ。

めえほお(めいほう、めいはう) **【名詞】** 蒸して干した鮑。蒸して干した物 めいほう [会話] 栄螺 の メエ ホオ、おおび (鮑) の、メイ ホオ やとか (だとか)、ひがい (干貝) に した のを メエ ホオ 言うんや ろなあ (言うのでしょうか) 干したもん (物) を。 メエ ホオ ん (に) して 言うて 蛸 の メエ ホオ やとか (だとか) ひだこ (干蛸) を。 水 蛸 やもんで (なので) 皮も じいたて (取つてやつて) それを はけ (刷毛、竹のひご) で、はり (張、突っ張り) こおて (支えて) 干しとくの (ておくのです) それを ひだこん (に) しとんの なあ (して居るのです)。あいな の おな (のが) メエ ホオ に しとる (して居る) 蛸 の メエ ホオ や (だ) 言うて。 此れは 皆 干し 有る 物。乾燥 したもん (物) を メエ ホオ 言うんや ろなあ (言うのでしょうか)。剥いて でも なつと でも (何とでも) して 乾燥 さし

たもんを(させた物を) メエホオヤ(と) 言うんやろ
なあ。

めえまあす 1) 忙しい様 2) 気を失う

めえむかれる 怒られる

めえむかれんど 怒られるぞ [会話] メエムカレンド
言うて わり(悪い) 事すると 怒られる言うのをな
あ メエムカレンド言うてなあ めえ(目) ひっから
かして(光らせる) うん言うて こらら(子供)を言
うのを 言うんやろなあ(言うのでしょう)。

めえむく 1) 目を大きく見開いて怒る。怒る。 2)
驚く。[会話] ① おおた たっこおて(高価で) メエ
ムイタレ言うてなあ。 やっすうい(安い) おもて(思
って) こおたや(買ったら) たっこおて(高価で) め
え ムイタヨオ言うて。 びっくり(驚く)する程 高
かった言うのなあ(です)。

めえめえ(めいめい)【名詞】 銘銘。一人一人別々に。各
自。おのおの。それぞれ。めいめいの訛 めえめん参
照(志(布施田)、鳥、上、阿、度、尾、南) [会話]
わがとら(自分達)一人一人言う事を メエメエ め
んめん言うね。 めんめん こおしよおや 言うね(言う
のです) めんめん ころびん(に) しよおや 言うて
別々に しよおや(しましよ) 言うの(のを)。 めんめ
んこ めんめん こお めんめん ころび 皆一緒の事や
(です) めんめん ころびで、 かきよやんか(目方を計
りましよう) 言うて、 仲間で(合わせて) かけんと
(計らずに) めんめん ころびん(に) しよおや 言う
て。

めえめえこ【名詞】 各自に(志)

めえめえぜん(銘銘膳) めいめいぜんに同じ。一人前宛
に分けた膳部

めえめえばらい(めいめいばらひ)【名詞】 各人、別別に
支拂う事

めえめん【名詞】 銘銘。めんめん(面面)の変化した語。
一人一人別々に。各自。それぞれ。[会話] めんめん
も メエメンも 一緒やわい(です)。 メエメンで し
ええ(しなさい) 言うの めんめん な(が) しええ
言うのなあ(です)。別々ん(に) する言うの(のを)
めんめん や(だ) 言うて。

めえもん【名詞】 月経。帯下。みえもん参照 みえもの
の訛 [会話] おりもん(下り物)の事か(ですか)。
おりもんの事 メエモン 言うやんか(言うのです)。

めえもん 1) 麦粒腫。眼瞼に出来る腫れ物。(志(片
田) 2) 目に入ったごみ。目へ物の意(続国語語源辞
典)(志(布施田)) [会話] ② メエモンで、メエモン

な(が) 入った言うのも 有るやんか(有ります)。目
へ 埃 な(が) 入って来て メエモン な(が) 入って
言うて。メエモン な(が) 入って こすりきった
(てやった) 言うて。

めえやすめ 目を休める事。目を使わない事。[会話]
メエヤスメヤ(だ) 言うて、なんもしやせんね(少し
もしないのです)。めえ使わんと(目使わずに) 休めと
る(ている) 言うのを。

めえやせん 見えない。(志(立神)) [会話] 見えませ
ん 言うのを、メエヤセン 言うて。おら(俺) まあ
あのじい な(字が) メエヤセン ねよお(のだ) 言うて
見えぬくいのを メエヤセン。

めえやせんない 見えない

めえやせんわい。ねえやせんわな(女性語)。めえやせん
われ 見えません

めえやみ。めえやめ【名詞】 目の病気、またはそれにか
かっている人。[会話] めえ な(目が) 痛い のお を
な あ(のを) メエヤメヤ(だ) 言うて。とんとめ(慢性
結膜炎)を病むとなあ メエヤメで まあ 言うて め
えやんで(目を病んで) 言うて。めえ な(目が) 痛い
のおを 病む 言うの(のです)。メエヤミ めえ(目)
やんどん ね(病んでいるのだ) 言うてなあ。

めえやん 1) 見えない。(上、阿、南、熊) 2) 来ない
[会話] ① 見えません 言うの メエヤン。なんも(少
しも) メエヤン われ(です) 言うて。② そして あの
人 此の頃 ひとつ(少しも) も メエヤン なあ 言う
て 来やせん なあ(来ない) 言うのを。

めえよ【名詞】 名誉 よい評判 めいよの訛

めえる 見える。(志(志島、国府)、鳥(加茂)、員、鈴
郡、鈴市、一、松、上、阿、張、名、伊、尾) [会話]
なんも、みえやせん(少しも見えない)。なんも みえ
やせん ねよお(のです) 言うて、眼鏡かけたら よお
(よく) メエルヨオ(見えます) とか。

めえれえ(めいれい)【名詞】 命令。上位の者から下位の
者に申しつけること、又その内容。めいれいの訛 [会
話] しえん しえ(先生)の メエレエヤ(だ) 言うて、
しえん しえ な どげん しとけ よお(どんなにしておき
なさい) 言うて 言うの(のを)、しえん しえの メ
エレエヤ よつて(だから) しとかな(しておかなけれ
ば) 言うて 命令を メエレエヤ(です)。

めえわく(めいわく)【名詞】 迷惑 困る事 めいわくの
訛

めえん 見えない。

めえんかからん 見当たらない 見えない(志(布施田))

めおと (めをと) (女夫) 【名詞】 夫婦。法律上婚姻した男女。[会話] みおとや (です) 此処は メオト 言わんと (ずに) みおとや (です)。夫婦の事を みおとや (です)。

めおとげんか (めをとげんくわ) (夫婦喧嘩) 【名詞】 夫婦の間での争い。

めおとづれ (めをとづれ) (夫婦連) 【名詞】 夫婦が連れ立つ事

めおとぶね (めをとぶね) (夫婦船) 【名詞】 夫婦で出漁する事 ととかかぶね (志)

めおとわかれ (めをとわかれ) (夫婦別) 【名詞】 夫婦が別れる事 離婚

めおび 【名詞】 鮑。貝肉が茶色のもの。(志、鳥) [会話] 白は、メオビ 言うわい (言います)。食べると やいこいけど (柔らかいが) 味な (が) ない メオビ は。

めおぼえ (目覚) 【名詞】 見た事が有る 目で覚えている物

めか 【名詞】 妾。めかけの略。[会話] 妾 鼻かけ 口かけ言うて おぼん (情婦に) なる事 メカヤ (だ) 言うなあ。

めか 【名詞】 魚。めかじき。メカジキ科の海魚。全長3.6mに達するものも有る。吻は剣状で長く他のカジキ類と異なり、腹鰭と鱗が無い。体色は淡灰褐色。性質は荒く肉は白っぽい。食用となる。(熊)

めがい (めがひ) (雌貝) 【名詞】 鮑の一種 (志、鳥 (菅島)) [会話] めおび (女鮑) の事。おのこ (雄) は黒黒言うのなあ (言うのです)。黒な (が) ものすごお (大変) 価な (が) しとんね (して居るのです)。黒の おより (のより) 違うのは メガイ 言うのなあ (言うのです)。やいこいわい (柔らかいです) メガイ は。メガイ は 美味ないなあ (くないです)。メガイ 言うのは おなご (女) で おのこ言うのは 男か (ですか)。喰い較べると くろがい の方 美味しい、そやよって (それだから) 黒は ねえなええ の (価がよいのです)。

めかけばら (妾腹) 【名詞】 妻以外の女性との間に出来た子供

めがける (目掛) 【動詞】 目をつけて求める 窺う

めかご (目籠) 【名詞】 竹などで編んだ目の粗い籠。
(志 (布施田)、尾、熊) [会話] メカゴ めえ (若布) 入れるのに あらくたいめえ (粗い目) して あんのな (有るのが) メカゴ や (だ)。稲 持ったり すんのん (するの) に 荷を運ぶのに なえばな (苗場) が 遠いと それで にのて (担って) 植える とこ (所) へ 運べおった (運んで居ました)。めえ (若布) かざ

いても (潜って採っても) メカゴ 使いおったの (使って居たのです)。今しや (今は) めえ (若布) 網の袋へ 皆 入れて 籠 使わせん (使いません)。ぼんりゅう (竹製の籠) より あつそおて ひんもええわな (格好よいのです)。ぼんりゅう は 品な (格好が) わりけどなあ (悪いのです)。そして ぼんりゅう は 目こまこお (小さく) 編んで有るし (有ります) 二重かがり みたよおなのなあ (竹籠のようなのです)。メカゴ 目 あらくとお (粗く) 此の位 (約六〜七糎2寸) の目で、そやよって (だから) メカゴ 言うんやる (言うの) でしょう) 目な (が) こげん (こんなに) 粗くたいんよって (粗のだから)。メカゴ は 苗 運んだり、あらめ (荒布) 運んだり、めえや (若布とか) そいなもん (そんな物) 運ぶの (のを) 目も 粗くたいのおで (粗いので)。

めがこえる 物を選別する能力が有る

めかしこむ 【自マ五】 身なりを飾り立てる めかす参照

めがしら (目頭) 【名詞】 目の端 鼻の方を言う

めかす (粧) 【自サ五】 身なりを飾りたてる。化粧や衣服を必要以上に飾りたて、おしゃれをする。盛装する。やつす。(鈴郡、松、北、南) [会話] メカシテ まあ言うのはなあ、伊達 こいて言うの なあ (です)。やつすのおを (美しくするのを) メカス。メカシコンデ まあ何処い (〜) 行くんどい (行くのですか) 言うてなあ。立派に着飾る言うの なあ (です) やつして言うの なあ。

めかた (目方) 【名詞】 重量。重さ。[会話] きんだまの メカタ 三百二十匁ある言う たねんなあ (言ったのです) きんだまは にきん (二金、二均) ある やんない (でしょう)。

めかちん 【名詞】 片目、又は片目の人。かんちとも。一眼の倒語。眼一。(志、鳥 (国崎)、員、鈴市、安、上、阿、張) [会話] メカチン 言う な (のは) かたつぼ (片一方) 目な (が) 無い の (のです)。かたつぼ 目くさん で (塞いで) かたつぼ (片一方) 目な (が) かんちの にげ (人間) を メカチン や どお (だぞ) 言うて、片目の人 メカチン や (だ) 言うて。“かため かんち と さだめた ために じょおめ (両目) 有る 奴あ (は) 面、憎い” 言うて。

めがね (眼鏡) 【名詞】 1) 磯眼鏡。海女が潜水の時、用いる眼鏡。(志、鳥) 2) 舟の上から覗く箱目鏡 (三重県) 3) 見込み [会話] ③ メガネ に叶わん言うて よお 言う やんかい (よく言います)。気に入ら せんと (ないと) 見込み な (が) 無い 言う事を なあ メガネ に叶わんで 戻されたんて われ (そうだ)。① 磯眼鏡

の事も メガネ言うて、2)そして (そうして) 突き手な (が) 持つ 四角い鏡、覗き鏡 磯鏡なあ 四角なのおで (ので) 上から舟で 覗いとんのなあ (ているのです)。

めかぶ【名詞】 若布の成実葉。根茎の部分について居る。葉が厚くひだ状に集まり、ここに孢子嚢が出来る、春とって食用にする。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府) 鳥、(国崎、鳥、)、度) [会話] メカブ めえ (若布) のかぶ。めえのもと (根元) に 付いとんなあ (付いて居ます)。和具は メカブな (が) 付かせんの (付かないのです)。布施田へ行くとなあ 和具も へたな (海岸近くが) やなぎめ 今しや (今は) 流れて来るもんで (ので) メカブな (が) 付くの (のです)。メカブ とろろして喰うと 美味いんなあ (美味しいのです)。

めかんち【名詞】 片目。独眼。(志 (志島、布施田、片田、船越、浜島、鶴方)、鳥 (相差、国崎、桃取、坂手、神島、鳥羽)、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、久、度、伊、尾、南、熊) [会話] メカンチ かたつぼ (片一方) めえな (目が) 無いの (のを) 片目かんち言うやんない (言うでしょう)。かんちや (は) 言うて 喧嘩するとさいご (その時) かまうやんかい (からかうのです)。めえな (目が) かたつぼ 無いと かんちよ (奴) 言うて なあ。

めきめき 各人の適不適。好き嫌い。人それぞれ。むきむき [会話] めんめん (各人) の むきむき (それぞれ) でなあ言うて、みんな (皆) 思いの違ふこと を メキメキ 。

めぎれ(目切)【名詞】 分量不足 (志 (布施田))

めぎんできた 芽が出て来た。事が始まった。妊娠した [会話] メギンデキタ、ちょいと (少し) めえ (芽) 出して来ると、メギンデキタ 言うやんかい (言います)。どんな種でも めえ (芽) を、かいわれ に ちょこつとして来ると、メギンデキタナイ (来ました) 言うて (言います)。なりもんだけ (のみ) やのおて (無くて)、なんでも (何にでも) いび (指) でも 短いと おた (ああ) あの人な (の) いび (指) 見よまあ (見なさい) めぎんだけばか (ばかり) みたよんしとんな (のようにして居る) 言うて、ちょこんとしとると (して居ると) メギンデキタ言うやんかい。妊娠した時でも、ひとつきやどけんのおは (一カ月位のは) メギンデキタ 言うて、一カ月や二カ月の妊娠で めぎんどんね (で居るのだ) 言うて、あのひたあ (人は) めぎんどんね (でいるのだ)、つわりしたりしとると (し

て居ると) あやまあ (彼女は) メギンドンネ 言うやんかい。一番始めん (に) ちょつと出して来んのを (来るのを)、首出して来んのを メギンダ。

めぎんでき 芽が出て来る。そのものの始めの状態を表す。[会話] ちょいと (少し) 出て来た、めえ (芽) 出して来ると メギンデクル 言うやんかい (言います)。どんな種でも めえ (芽) を かいわれ に ちょこつと (少し) して来ると メギンデクル。

めくさ 人をののしつて言う語。目糞は

めくさり【名詞】 細かい着物の模様

めくさり【名詞】 ただれ目 (鳥、南)

めくされ【名詞】 1) 眼病で目の周囲がただれて居る状態。2) 他人をののしつて言う語。[会話] 1) メクサレや (だ) あや (彼は) 言うて、めえな (目が) 痛い 人 メクサレや (だ) 言うて。いつでも 目な (が) いと おて (痛くて) あっこお (赤く) して 目やに が 出て ぶしょぶしょしとる (して居る) 人な (が) 有る わい (有ります) それを メクサリ。さかさまつげ な (逆睫が) 生えて うじゃうじゃしとる人なあ (です)、あのひた (人は) メクサリやなあ (だ) 言うて。真つ赤ん (に) して まよりな (目脂が) して、まつげ な (が) 皆 抜けて て (行つて) あまめな (ごきぶりが) 吸うた た (てやつた) よおん (に) なんの (なるのです)。あまめな (が) 吸うた た (てしまった) よおな 目しとる人な (が) しよんがつん (正月に) なると 箱 持て (持って) 来て 飴 売つたり 落花生 売つたり。らっかせ (落花生) の 辻うらな (辻占いが) 入つと て (て居て) それを 読んで 喜んで、昔や (は) あれ 三角ん (に) しと て (して居て) 中ん (に) ぺこんぺこんな (が) 入つと て。ぺこんぺこん言うな (のは) うつすうい (薄い) ガラス で 口な (が) 付いと て (て居て) それを ふうふう すると ぺこんぺこん 言うので ぺこんぺこんや (だ) 言うて、そいな (そんな) おもちやな (が) 売つて おり おつたの (居たのです)。あの人な (が) につけん (につき) を あつかい (赤い) 紙 で 東ねて 一銭 や 二銭 で こお て (買って) それを 食べて。きい (木) の 根 を ふつとい (太い) の おは 五銭 も 三銭 も いっぼ (一本) ですん の なし (するのです)。根な (が) ほっそい (細い) ひげ みたい いな なあ (のようなのは) から げ て あん な (東ねてあるのは) 一銭 や 二銭 や 言うて かあ を (皮を) ねぶつ とり おつたの (舐めて居たのです)。あまめな 吸うた た よおな 目 言う な (のは) まつげ な 抜けて て (抜けて行つて) なん もの お て (少しも無く

て) ずべこべん (に) なつとんのおなあ (なつて居るのを) あっこお (赤く) して やねな (眼脂が) たまって 汚いよおん (に) しとんの (して居るのを)。あまめな (が) 芋やどけ (など) 置いて有ると それ吸うたると (吸ってやると) なんやら (何か) みよおな (変な) よおん (に) しとるやんない (しているでしょう) そやもんで (それで) あまめな (が) 吸うたたよおな目や (だ) 言うて。

めくされ【名詞】着物の柄の極めて小さい物。[会話] めくさりやなあ (だ) 言うて きもん (着物) の 柄 (模様) の ちっさい (小さい) のを メクサレやなあ 言うて こおと (地味) なのを。

めくされがね【名詞】少しの金銭を罵つて言う語

めくじき【名詞】鰯の料理法 鰯を生で食べる時、下顎を外し鰓、内臓、皮を取り除き、目を残したままの形にする方法、目玉が美味。

めくじらたてる 怒る とがめる (松)

めくそ【目糞】1) 眼糞。眼脂 (志 (浜島)) 2) 少量の物。3) 子供を叱る語 [会話] 1) めえ (目) の ふち (縁) に やねな (脂が) たまって 来んのを (くるのを) めやねの事を、メクソ言うて。2) ほいて (そうして) なんでも ちよいと (少し) すると メクソほど けやなあ (程だ) 言うて。3) 子供らな (が) わり (悪い) 事しても メクソよたら (とか) 鼻くさ (鼻糞は) たら 言うて 怒って。ちよいとの物、貰うと 鼻糞程呉れた 言うて。メクソ、尻糞、歯糞言うて めえのふちへ 朝 起きると ころつと しとるやんない (して居るでしょう) あいなのおを (あんなのを) メクソや (と) 言うの なあ (のです)。めくさ言うて 子供ら怒ったりする時ん (に) めくさ はななくさ 言うて。メクソ言う時は やね (脂) の事を、そげん 言うの (そんなに言うのです)。怒つとる時は 早口で めくさ。メクソ程 くれまあ (下さい) 言うて ちよいと (少し) くれ 言う時 メクソ程でええわい (よろしい) 言うて 少し 言う意味。

めくそほど ごく少量 [会話] ちよおいと (少し) く れるとなあ メクソほど貰ろて (貰って) 来た 言うて なあ。メクソほどで ええわい (よろしい) くれえ (下さい) 言う時も 有るやんかいなあ (有ります)。ちよおいと で ええわい 言う時 んなあ (に) 少し 下さい 言うのを なあ すけないもん (少ない物) を、くれられん (やれない) 言うのを なあ わしげ (私の家) も メクソほどでええわい くれえ (下さい) 言うて なあ。

めくばり (目配)【名詞】方方を注意して見る事

めぐむ (芽)【自マ五】草木が芽を出す 芽ばえる

めぐらかす【他サ五】囲む。包囲する。[会話] どこも かも 張りメグラカシテ 言うて、張りメグラシテ 入られやせんない (入られない) 言うて、垣を 嚴重ん (に) すんのをなあ (するのを) どこもかも 張りメグラカシトラレ (ている) 言うて なあ。

めくらさがし【名詞】1) 暗闇の中で物を探す事。

2) 眼鏡せずに潜って漁獲する事。(志、鳥) 3) 当ても無く探す事 [会話] 1) メクラサガシ 言うて くら

ごおて (暗がりくて) 撫でもて (ながら) 探すの メクラサガシ。てえ (手) で 撫でん (る) のおを メクラサガシ して言うて。2) 海女さんな (が) 眼鏡せん

と (せずに) 潜つてくのは (て行くのは) あいなな なあ (あんなのは)。わしらの (九十二才) 親の婆さんら

な (が) 眼鏡かけんと (掛けずに) しよおつたんでわ

い (して居たそうです)。わしらな おぼえてからは ポンプ眼鏡や (だ) 言うて ふくろますもん (膨らす

物) が 付いとて (て居て) 鼻ばな (は) 出して ポンプな (が) 付いとて おつたの (付いて居たのです)。

四角な がんがん (罐) の、のおえ (のへ) ふくろま

すもん (が) 付いとて そいて (そうして) 眼鏡へ

ふくろますもん (物) 縛つて その ふくろますもん

(物) 破つたると (てやると) はざんもんで (いけないので)。とたん (とたん板) で 四角な おな (の

が) じよおふち (両縁) に 付いとて (ていて) その中

へ ふくろますもん (が) 入れて あんの (有るので

す)。ほすと (すると) 眼鏡の此処 (端に) 穴な (が)

あいとして (て居て) それい (へ) 縛ると 底入

つても (潜つて行つても) ひきしめやせん の。それい

(それに) 空気な (が) 入るもんで (ので)。ふつかい

とこ (深い所) いつて (潜つて) 目な (が) ひきしめ

てくんやんかい (行くのです) まなこ (瞳) も 飛び

出してく程 ひきしめてく の (て行くのです)。そやけ

ど (しかし) 袋の そんだけ (それだけ) 付いとんの

おで (ているので) ひきしめやせん の (ないのです)。

それから こんだ (今度は) 鼻出しの 耳い (へ) つ

けるのなあ (のです) はやつて来て (流行して) そし

て 今しの (今の) 鼻入れたんの (入れてやるのが)

はやつて来て。わしげ (我家) の 婆さんら な (が) す

る時分 (頃) は 眼鏡かけんと 探すので 手さぐり

して そして (そうして) 家い (へ) 来ると めえな

(目が) 河豚の目へ 塩したよおん (に) して おつた

真つかん (赤に) なつて そいから (それから) 今度

する時 眼鏡な (が) はやって来て。はやって来てからは 掛けおったけど (居たが) はやって来る迄は 眼鏡かけんと (掛けずに) するもんで (ので) 目な (が) ひらたきおったわい (痛みました)。わしらな (私達) しおあびん (海水浴) 行くと ねがみあいしよおや (睨みあいしましょう) 言うて 眼鏡かけんと すると 目へ 潮な (海水が) 入って 上がって来る と 目な (が) いらいらすんね (するのです)。昔の人は 眼鏡かけると 鮑よけ (沢山) 採りおったんてわい。よけ (沢山) おったんやろのお (居たのでしょ) う 手さぐりしても そいて (そうして) 足 登った ると (てやると) きりきりとして 此れ 鮑や (だ) 言うて 採りおったんてわい (採ったそうです)。そして それから 眼鏡な (が) はやって来たのおな (の) が、ポンプ眼鏡や (だ) 言うて そいな (の) しよおった わい (して居ました)。そんな (それが) はやって来て から かあ (皮) の耳 いん (犬) の耳みたいな (の) ようなのを さがらかして (吊るして) 鼻出して ぶうと 空気入れて ゴムな (が) 吊がとて (て居て) それで 空気入れて そして ひい (止める物・栓) を それい (へ) ちよいとさして (入れて) 耳な (が) ぼんとふくるむ (膨らむ) と 底入っても (潜っても) 引きしめてかせんけど (て行かないが) 空気な (が) 抜けとると (て居ると) ふっかいとこ 行くと 引きしめてて (て行って) 目な (が) 飛ぼれてく (飛び出て行く) 感じな (が) する。ねがみあい 言うのは 睨みあい。海の底で 手つないでおって (つないで居て) ねがみあいすん (の) (するのです)。

めぐらじま 【名詞】 布の縞柄の一種 (志)

めぐりあわせ (めぐりあはせ) 【運合】 【名詞】 運命 吉凶の事に合う事

めぐりやう (めぐりあう、めぐりあふ) 【巡合】 【自ワ五】 出合う

めぐろ 【名詞】 貝殻のこんもりとして、少し長めの鮑。
(志) [会話] メグロ言うのは おのこを言うんや (言うのです)。くろおおびや (黒鮑だ) 言うて。めた か言うな (のは) めおびみたいん (女鮑のように) し とんねけど (して居るのだが) 貝の目な (が) たっかい んてや (高いのです)。おのこ言うのなあ (のは) 今 し (今) で言う くろや (です)。ものすごお (大変) かとおてすんねけど (硬くてするが) 又 美味いん てや (美味です)。

めぐろ 【名詞】 よく気をつけて細部迄見ている人

めご (女子)。**めごた** 【名詞】 1) 雌。めこ。女子。女の

子。女性性器の隠語。(鳥) 2) 雌鶏。(志、北) [会話] 2) メゴタ 鶏のメゴタ にげ (人間) のめえ (目) も あまめ (ごきぶり) の 吸うたたよおな (てやった) 目 (ただれて居る目) しとると (して居ると) メゴタのほぼみたいに (女陰のように) しとられ (して居る) 言うて。目な (が) まつげな (睫が) 抜けて ひっちやかつとると (開いていると) メゴタのほぼみたいにしとる あの人の目や (は) 言うて。メゴタ 言うて 雌鶏の事。鳥はいっけつやよって (一穴だから) なんやら (なにか) 尻な (が) 飛び出しと んのおな (て居るのが) 有るんなあ (有ります)。卵へり過ぎんねえやら (産み過ぎるのか) 病気やか (だ) か なんやか (何か) こお でんぐり返った (ひっくり返った) よおん (に) しとんのおな 有りおった なあ (有りました)。そいなのおを (そんなのを) メゴタのほぼみたい (の) ようだ 言うて。まあ ほぼ (女陰) は (鶏には) 無いんけど (無いが) いっけつやよ って。メゴタ は 鶏の事 だけで 他の動物は 雌や雄 や (だ) 言うて しなもん (品物、性器) で 別れと んねけど (別れて居るのだが) 鶏は メゴとおん (雄) とは 判つとんねけど (判って居るが) 尻は 一つしか (より) 無いもんで (ので) いっけつや 言うて。1) メゴタ に対して 男は おんた。

めごたのぼぼ 【名詞】 鶏の尻。赤く腫れた状態。[会話] めごた (雌鶏) は いっけつやよってなあ (一穴だから) 尻とおたべ (女陰) と 一緒やもんで (なので) 卵な (が) 出てくんのも (来るのも) はこたれんのも (大便するのも) そつから (そこから) 出て来るやん ない (でしょう)。卵な (が) 出た後なあ でんぐりか えって (ひっくり返って) あっこおしとるもんで (赤くしている) ので はれて来ると メゴタノホボみたい ななあ (の) ようだ 言うて 雌鶏の事 めごた 言うの (のです)。

めこぼし (目零) 【名詞】 1) 人の目につかない事。注意もれ。採取もれ。2) 許す。見のがす。[会話] 1) メコボシな (が) 有るとか、無いとか 言うて 見残しを なあ (です)。メコボシも無いよおん (に) 皆 取った て (てしまつて) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。なんでも 見残しは 有るやんな (でしょう)。ほつと (すると) なんも (何も) 無いと、メコボシも無かつた なあ 言うて 一つも (全く) 無いよお (ように) した後なあ (を)。2) メコボシ しといて くれ (しておいて下さい) とか 目つぶりしといて くれ とか 言うて 黙つといてくれ 言うて 悪い事したて

も (してしまっても)。人ら (他人) に言うと みとみ
ない (見苦しい) 事な (が) 有ると なつとも
言わんと (何も言わずに) 目つぶつと いってくれ 言うて 口止
めする事な (です)。

めこぼれ (目益) 【名詞】 見落とすこと、又そのもの。節、
網などの目からこぼれ落ちたもの [会話] メコボレ
でええわい (よろしい) くれえ (下さい) 言うて、ち
よおいと (少し) のもの (物) でもな メコボレほ
どけ (程) 言うて、目から おっきい (大きい) のは
落ちやせんけど (落ちないが) ちっちゃい (小さい)
のは メコボレ さして (させて) 言うて よお
言うや
んかい (よく言います)。とおし (篩) で通す
とな ちっちゃいな あ (小さいのは) 下い (へ) 落ちる
しまとも な あ (普通のは) 上ん (に) あが
つとる
や
んかい (残っています) それ
や
よつて (だから) めこ
ぼし
言う
の (のです) わり
もん (悪い物) を めこ
ぼし
言う
ん
やる
な (言うのでしょうか)。メコボレ
で
ええ
わい 言う
時
な (が) 有る
わい (有ります)。なん
でも
(なにでも) 貰う
時
ん (に) ええ (よい) の
くれ (下
さい) 言
われ
や
せん
し (言えないし) メコボレ
で
も
え
え
わい 言う
の
な
あ (です)。自分
が
見
落
と
し
と
る (て
いる) 言う
の
も メコボレ。此
の
に
げ (人間) ええ
(よい) おも
と
ん
の
ん (思っているのに) ちよ
いと
(少し) まし
いな
あ
言う
の
も めこ
ぼし
や
な
あ (だ)
言う
時
な (が) 有る
や
ん
かい (無いのだ)。見
落
と
し
と
る
と (ていると) めこ
ぼし
し
と
た
ん
か
し
て (していた
のか) 無
い
ね
よ
お (有りません) 言う
て、有
る
と
思
う
の
お
な (のが) 無
い
時
ん
な
あ (に) お
た
めこ
ぼし
し
と
た
ん
な
あ (していたのだ) 無
い
ん
よ
お (有りませ
ん) 言う
て
な
あ。

めさき (目前) 【名詞】 1) 目の前 眼前 2) すぐの事
すぐにしなければならない仕事など

めざし 【名詞】 網の目に首を突き込んで居る魚。[会話]
南北
や
ど
けい (網漁などに) 行
て
も
な
あ、網
引
く
の
ん (に) が
ら
め
の
う
ち
は (粗い目の間は) メザシ
は
無
い
ね (のです) しよ
お
め (小さい目) にな
ると
な
あ
抜
け
て
こ
と (ていこうと) す
ん
の
な (するの) め
え
え (目へ) か
か
ん
の (掛かるのです) す
ず
と
な
あ (す
ると) メザシ
な (が) く
ん
の (来るのです)。が
ら
め
の
う
ち
は め
え
な (目が) お
っ
き
い
も
ん
で (大きいの
で) お
っ
き
い 魚
なら
掛
か
る
け
ど (が) が
ら
め
引
く
う
ち
は (間は) メザシ
は
無
い
の (のです) しよ
お
め
ん
(に) な
ると
メザシ
な (が) 出
来
て
く
ん
ね (出来
て来るのです)。

めざとい (目敏い) 【形容詞】 1) 見付けるのが早い。目
が早い。2) すぐ目がさめる。[会話] 1) メザ
ト
イ
ナ
ア
言
う
な
な
あ (のは) さ
さ
こ
し
の
お
を (機敏なの
を) せ
せ
か
し (面倒) 事
す
ると。め
ざ
と
い
言
う
の
は
見
つ
け
ん
の
お
な (見付けるのが) 早
い
と
か
言
う
よ
な
意
味
や
わ
い (です)。2) メザ
ト
イ
言
う
て ち
よ
い
と
の
事
(少しの事) でも 目
な (が) 覚
め
て 起
き
て
し
ま
う
言
う
な (のは) あ
い
な
な (あんなのは) 目
な
早
い め
え
な (目が) 早
い
も
ん
で (ので) カ
タ
ツ
と
す
ると 目
あ
く
言
う
て。ち
よ
い
と ガ
タ
ツ
と
し
て
も 目
、
さ
ま
す
に
げ (人間) は 目
な (が) 早
よ
お
て (早くて) 言
う
て。

めざまし。めざまし (目覚) 【名詞】 子供が眠りから起き
た時に与える食物。(志、上、阿、熊) [会話] 子供
ら
な (が) 昼
寝
し
と
て (していて) 起
き
て
来
て メ
ザ
マ
シ
や
ろ
か
あ (あげようか) 言
う
て
な
あ。そ
や (それ)
あ
ん
な (彼が) 起
き
た
ら メ
ザ
マ
シ
ん (に) 此
れ
や
れ
よ
お (あげなさい) 言
う
て、か
し
ん (菓子) でも な
ん
でも
な
あ。メ
ザ
マ
シ
ん (に) 此
れ
枕
許
い (へ) 置
い
と
け (ておけ) 言
う
て
な
あ 起
き
た
ら す
ぐ
ん
(に) そ
や (それ) 此
れ
く
れ
る
わ (あげます) 言
う
と、
泣
く
の
な (が) や
ま
ん
の
な
あ (止むのです)。

めざまし (目覚) 【形容詞】 物事がきわだっており、目も
覚める程である。驚く程立派なさま。[会話] メ
ザ
マ
シ お
っ
ち
や
く
な
ね (横着なのだ) 言
う
ん
な
あ (言う
のです)。あ
ん
ま
り (あまり) お
っ
ち
や
く
な
事
す
ると。
仕
事
し
て
も ど
い
ら
い (大変) 上
手
に
す
ると お
お
た
メ
ザ
マ
シ
よ
お
な
な
あ (だ) あ
の
し
た (人は) 言
う
や
ん
か
い (言います)。メ
ザ
マ
シ
程 よ
お 働
く
な
あ
言
う
て、
よ
お (よく) 働
く
の
な
あ。

めざめ (目覚) 【名詞】 目の覚める事

めざらし 【名詞】 人目に晒されて恥をかき事。人にじろ
じろと眺められる事。[会話] メ
ザ
ラ
シ
言
う
事
は 人
に
恥
さ
ら
す
言
う
事
や
わ
い (です)。人
に
笑
わ
れ
て
言
う
事
や
わ
い。人
な (が) 一
回
見
る
と
こ (所を) 二
回
も
見
る
こ
と
な
あ (です) 何
回
で
も み
に
く
い
も
ん (物) は
見
返
っ
て
す
る
や
ん
か
な (です)。そ
い
な (そんな) 事
を
な
あ メ
ザ
ラ
シ
ん (に) ナ
ツ
テ 笑
わ
れ
て
言
う
て。

めざらしんなって 恥をかいて めざらし参照

めざわり (めざはり) (目障) 【名詞】 【形容詞】 見るのが
嫌なもの 見るのに障碍になる物

めし (飯) 【名詞】 1) 食事 (志 (船越、片田、布施田)、
鳥 (相差、答志) 2) 御飯 [会話] メ
シ
に め
っ
つ
ぼ (飯粒)、御
飯
に 御
飯
粒
の
事
を め
っ
つ
ぼ
言
う
の

(のです)。子供らを怒る時 そのめつつばあ (飯粒は) 言うて、怒る時も使うねんなあ (使うのです)。めつつばあ言うて 大人な (が) 腹な (が) 立って来ると そのめつつばよ (奴) 言うて おこんの (怒るのです)。²⁾ メシ言うのは 御飯の事。めつつば言うのは 御飯つぼ (粒) の事。¹⁾ メシ言うのは メシにしよおやんか (しましょう) 言うて 食事にしよお言うて メシくおや (食べましょう) 言うの (のです)。まあ のらよ (お前達) はよ (早く) メシ、喰をやんかれ (食べましょう) はよ こんかれ (来なさい) 言うて。メシ 言うのは 御飯も有るし、食事しよおや (しましょう) 言う時も。

めじ (目地) 【名詞】 物と物との隙間、またその隙間につめるもの。[会話] メジ詰める言うてなあ、穴 止める事なあ (です) メジ止めんとおんど (居る) 言うてなあ。

めじ 【名詞】 魚。めじまぐろの略。鮪の 60cm未満の物を言う。メジカ (目鹿、目近) の略か (物類呼稱) (鈴市) [会話] メジ言う魚な (が) 有るやんかいなあ (有ります) 鮪みたよなのおやんかな (のようなのです) 美味いねんなあ (のです) メジは。

めしおけ (飯桶) 【名詞】 飯を入れる桶。御櫃。飯を入れる大きな桶。(熊) [会話] おひつの事やる (でしょう) メシオケ。昔や (は) ほんだいや (だ) 言よおつた (言って居ました)。

めしかけじる 【名詞】 味噌汁の中へ御飯を入れたもの。御飯へ味噌汁をかける事は漁師の禁忌である。

めしくいどき 食事をしている時。食事をする頃。めしどき。[会話] 丁度ええとこ (よい所) へ来たわい (来ました) はよ喰おやんかい (早く食べましょう) 言うて メシクイドキン (に) 来ると。

めしくう 食事をする。(志 (浜島、志島)、鳥 (坂手)) [会話] 御飯食べる事 メシクウ (食べる) 言うて、よお (よく) メシクウナア (食べる) 言うてなあ。

めしくわす 食事をさせる。扶養する。養う。(南) [会話] おや (俺は) あの婆さんに メシクワシトンネド (ているのだ) 言うて、やしのとる (養っている) 事をなあ こおてもろとる (飼ってもらっている) 言うねんなあ (言うのです)。まあ おら (俺は) 兄ん子ん (兄貴に) こおてもろとんねよってん (飼ってもらっているのだから) 言うて 食わしてもろとる 言うのをなあ。こおてもろとる 犬 飼う位や(です)。そすと (すると) 兄な (が) 言うと おら 婆 こおとて (飼っていて) おら (俺は) 婆 こおとんねよって

(飼っているのだから) えらいてや (大変です) 婆 飼わんならんのん (に) えらいわい (大変です) 言うて。メシクワス言うのは 養う 扶養する言うのを。

めしごさえ。めしごしゃえ。めしごしらえ (めしごしらへ) 【名詞】 食事の支度。(南) [会話] 御飯の支度すんのを (するのを) メシゴシラエ言うてなあ、御飯炊いたり おかず 炊いたりすんのを メシゴサエせなはざん (しなければいけない) かしきせんならん (炊事掛りしなければ) 言う 婆ら有るしなあ (有ります)。おら (俺は) かしきやよってん (炊事掛りだから) 言うて 御飯 支度するにげ (人間) を。

めしじぶん (飯時分) 【名詞】 食事をする頃 めしどき

めしじゃくし (飯杓子) 【名詞】 飯を盛るのに用いる杓子。(鳥) [会話] 飯 移す 大きなしゃくしでなあ 鍋の飯を どいらいので (大きいので) すんねよってなあ (するのだから) こいな (こんな) 釜で すんねよってなあ 移す時ん (に) どいらいのおを (大きなのを) なんがあいのおで (長いので) めし移す しゃくしや (だ) 言うて。メシジャクシ言うのは 釜からお櫃へ移すのを言うて、茶碗へ よそうのは ちっちゃいの (小さいのです)。おおじゃくし こじゃくし言うの (のです)。おおじゃくしもて (持って) 来い 飯 あわすのん (移すのに) 言うて、飯 あわす (移す) 時やなあ (は) ちっさい (小さい) のでしとたら (していたら) せせかして (面倒で)。

めしだい (飯代) 【名詞】 食事代。[会話] メシダイも拂え。メシダイも よお拂わんねない (拂えないのだ) 言うて ぜん (銭) わずか (少し) もろて (貰って) 来るだけでなあ 小使い 取ったると (てやると) 無いけど (が) そんでも (それでも) 一円でも二円でも口代も 拂わな、はざんわれ (なければ駄目だ) 言うてなあ。飯 食うのを 食事代言うのを くちだい 言うてなあ 食事代も拂え言うのをなあ わがとら (自分の) 食う くちだい 位 拂えまあ (拂いなさい) 言うて。

めしたき 【名詞】 1) 炊事。食事の用意。(南) 2) 御飯を炊くこと、又それをする人。[会話] メシタキ 御飯炊き メシタキン (に) 頼まれた 言うて、昔や (は) けご (下女) に行く言うてな 女中に行く訳やんかな (です) それを メシタキに行くね (のだ) 言うてな。

めしつぼ 【名詞】 御飯粒。(志 (浜島)) [会話] 御飯つぼ (粒) 言うのを 御膳つぼ (粒) 言う人も有るし メシツボ (飯粒)、めつつばや (飯粒と) 言うて。

めしどき【名詞】食事の頃。[会話] メシドキン (に) 他所の家ん 行た時ん やらんかい (食べませんか) 言うやんかい (言います)。

めしのかたつぶし【名詞】御飯の不足を補うために食べる物。[会話] メシノカタツブシン いもんにやげ (芋の煮た物) 食うとれたら (食べておれとか) 言うて。御飯や (だ) 言うと 米や (とか) 麦や (が) 要るよつてなあ (から) それを助ける為んなあ (に) いもんにやげ 食うたり 困子したりなあ。のしや (お前は) こや (これ) なんもならんで (役に立たなくて) メシノカタツブシンも (にも) ならせんやんかあ (ならないでないか) 言うて、わるう (叱る) 時な (が) 有るやんかい (有ります)。飯の足しに喰うのをメシノカタツブシ言うて、カタツブシン (に) 喰をやんかあ (食べましょう) 言うて。此の時は 御飯食べたけど (けれど) まだ もおちよいと (少し) 足らんもんで (ので) 何か食べる言うて 食べるし 食べるまでに カタツブシ 先い (へ) 喰う時も有るし 飯まあだ (の) 足しに言うわけやわい (です) カタツブシ言うななあ (のは)。御飯な (が) ちよいと (少し) 足らんよおな時にすんねやろ (するのでしょうか)。ちよいと 此れ カタツブシン (に) 喰をやんかあ (食べましょう) 言うて 飯な (が) ちよいと 足らんよつて (足りないから) それの 足しん (に) 他のもん (物) 喰うのを カタツブシや (だ) 言うて。飯な (が) ちよいと 足らんと 餅 焼こやんかあ 言うて、餅 焼いて食べて。そおめん汁 (味噌汁の中へ素麵を入れた物) でも しょおや (しましょう) 言うて 御飯が足らん時や (は) 素麵 食べると 腹の足しん (に) なるもんで (ので) 素麵汁したり あられいって ちゃあ (茶) 飲んだり。

めしのさいにもきかしてある。めしのさいにもきかしてあんのん【俚諺】いつも言っている。喧しく言っている。あんのん—あるのに [会話] おかず (副食) さい (副食) の事 メシノサイニモキカシテアンノン言うて、しちくどお (うるさい程) どげんも (どんなにも) せなはざんわれ (しなければ駄目だ)。こげん (こんなに) せなはざんわれ 言うて 飯のさいにも言うて 聞かしてあるやんない (あるだろう) 言うて。飯のさい (菜) おかず (副食) の事 さいや (だ) 言うのなあ (です)。飯の菜にも言うて 口な (が) すい (酔く) なる程 聞かしてあんのん 言う事聞かせん (ない) 言うて。

めしのだし (飯の足し)【名詞】一時しのぎの食べ物。御

飯の不足を補うために食べるもの。[会話] メシノタシとも言うし 腹の足しとも言うなあ (言います)。飯のかたつぶし言うて よお言うやんかい (よく言います)。メシノタシに なんなど (何でも) 喰うと 飯のかたつぶし言うて。

めしのだね【名詞】収入の手段。仕事。(上、阿) [会話] メシノタネやれ (だ) 此のこお (子) 守りしとや (しておれば、この子、大事のこおやよつて (子だから) そや (それ) メシノタネやどお (だぞ) 言うて、婆らな (が) こお (子供) 預かって その賃に 喰わして (食べさせて) もらうもんで (ので) オメシノタネ言うね (言うのです)。オメシノタネやよつてん 大事にせな (しなければ) 言うてなあ、そのこお (子供) おくためん (子守りするので) 喰わして もおとんねよつて (貰っているのだから) メシノタネや。言うてみや (見れば) 収入の手段や (です) 金は貰わせんけど (貰わないが) そのこお (子供) おいて (子守して) 飯よばれるもんで (頂くので) オメシノタネ言うねやんかな (言うのです)。

めしばこ【名詞】飯を入れる器。弁当箱。(志) [会話] メシバコ言うて まげもんや (です、今し (今) で言うて べんとがらやわいなあ (弁当箱です)。メシバコい (へ) 飯 詰めて言うて べんとばこい (弁当箱へ) 飯 詰める言うのを。まげもんへ 味噌箱 味噌一杯詰めて 味噌箱と まげもんと 有りさいすや (さえすれば) まあなんも要らんね (なに也不要るのです)。和具の 嫁入りや (は) 磯桶と まげもんと 味噌箱と にじゅうかがり (籠) と 有りさいすや ぞんで (それで) よかったね (のです)、のみとさわらの桶一つ言うて 嫁入り道具や (です)。

めしびつ【名詞】御飯を入れるお櫃。(松) [会話] メシビツも有るし、米櫃も有るし、着物入れる櫃も有るし、一番いらんのが がんびつ (棺桶)。飯入れんのも (入れるのも) じょおし (漁師) の人ら メシビツや (だ) 言う人も有るわい (有ります)。

めしふご【名詞】海女、農夫が弁当を入れるふご。(度) [会話] なんやかや (何彼) 負いねる言うて、畠え (へ) 行くと ふごやどけ (藁で編んだ荷物運搬用の器など) を、メシフゴやなあ (など)、肩へかけて負いねる。メシフゴ言うて、べんと (弁当) 入れるふごな (が) ありおったやんかい (有ったので有りませんか)。昔や (昔は)、今し (今) でも ちっちゃいの (小さいのを)、磯人な (海女が) 負いねるとるやんない (背負っているでしょう)。あれを としみて編んで。畠やとか

磯やとか行くのな (行くのが) 底な (が) ふっかいの
おを (深いのを)。

めしぼり【名詞】またたき [会話] いつも めえ
(目)を しばたいて居る事 メシボリ言う。

めしまえ (めしまへ) (飯前)【名詞】食事の前

めしめつぱ【名詞】御飯を入れる桧板で作った円形の容
器 (めつぱ)。[会話] めつぱ言うて 桧のおお (の
で) 重ねるよおん (ように) して有って 飯のおお
(のは) ちっそおて (小さくて) おつけもんのは (味
噌汁入れるのは) どいらのおお (大きいので) それい
(それへ) 飯入れんのを (入れるのを) メシメツパ。

めしもち (飯持)【名詞】葬式の時の女性の役。水持ちに
ついて重い。水持ちは長男の嫁、飯持ちは、死者に最
も血縁の濃い者、主に長女が此れに当る。

めしもり【名詞】飯盛。御飯の給事。(南) [会話] メシ
モリ言うてなあ 鍋のふちん (近くに) むことるとな
あ (座っていると) もりばんしとるとなあ (よせい役
していると) なんも (少しも) 食うとるあいな (食べ
ている暇が) 無いね (無いのです)。もって (よそつて
下さい) もって言うてなあ。一杯や二杯や (で) 無い
し、やんな (でしょう) 四杯五杯つ 食うんよつてな
あ (食べるのだから) そやよつて (それだから) それ
のもりばんしとると (よせい役していると) 食うとる
あいな 無いね。

めしや (飯屋)【名詞】簡単な食事をさせる飲食店。
(南)

めしよお (めしやう) (目性)【名詞】人の目の丈夫さや
視力を言う。

めしよおがつ (めしやうぐわつ)【名詞】珍しい物、貴重
な物を見た時に言う。[会話] めえ (目)の正月かい
(ですか)。めえ (目)の料理や (です) めえ (目)で
まあ ああ ええなあ (よい) 美味そうなあ (だ)
思うのおでなあ (ので) めえ (目)の正月で ロい
(へ) はいらせんねけど (入らないのだが) おおた
美味そおなあ (だ)、おもてなあ (思つて)。立派な
もん (物) 見た時も メシヨオガツ。

めしよぼ【名詞】目をしよぼしよぼさせる人。(志 (片田、
布施田、神明、甲賀)) [会話] めえ (目)しよぼしよ
ぼしとんのおを (して居るのを) メシヨボ言うの (の
です)。目な (が) 開いとらへんのなあ (て居ないの
を)。ぱちつしとると なんやけど (よいのですが)
かやぎで (かやで切った傷、かや切れ) みたよおんし
とて (のようにして居て) 傷葉つけたると (てやる
と) いえてくよおん (治つて行くように) しとんの

(しているのを) メシヨボやなあ (だ) 言うて。かや
ぎでみたよおんしとて (のようにしていて) 傷葉つけ
たらいえてかれ (治つて行く) 言うて、メシヨボの
にげ (人間) 見ると言うやんかい (言います)。目がほつ
そおて (細くて) しよぼしよぼしとるもんで (して居
るので) 目な (が) あいたよおな くさんだ (ふさい
だ) よおなのな (が) 有るがのお (有ります)。そいな
のおを (そんなのを) 目な (が) かやぎで程より 開
いとらせん (開いて居ない) 傷葉 塗つたや (てやれ
ば) いえてくねなあ (治つて行く) 言うて よお言う
わい (よく言います)。

めじり (皆)【名詞】目の端の耳側メシリ (目後)の義
(大言海)

めしる (目汁)【名詞】涙。眼脂。[会話] 涙みたいん
(のように) 出てくんのなあ (来るのを) メシルな
(が) 出て言うて。昔の人ら (は) メシルな (が) 出
て、目 のござやんない (ぬぐう、拭くでしょう) そ
すと (すると) めのぐいや (だ) 言うて めのぐいも
置かんと (置かずに) 持たねんない (持って行った
のだ) 言うて、隠居 (分家) したりすると なんもか
も (すべて) 持ち込んでくと (持ち出して行く) め
のぐいも置かんと 持たねんない 言うて よお言
いおつた (よく言っていました)。

めじろい【名詞】物を見るのに上手で有る。玄人目。[会
話] なんやかや (いろいろ) みんのん (見るのに) 上
手に見る言うの事を メジロいなあ あの人言う時な
(が) 有るやんかい (有るで有りませんか)。あの人、
メジロいや (だ) 言うやんない (言うでしょう)、な
んやかや みんのん 上手な人を。

めしわん (飯椀)【名詞】飯を盛る椀。茶碗。(上、阿)
[会話] メシワンや (だ) 汁椀や (だ) 言うて 飯も
る (よそう) 椀。

めず【名詞】釣糸を結ぶ、釣竿の先端につく輪。みず、
穴の意

めすがた (目姿)【名詞】目つき。まなざし。(志 (布施
田)) [会話] めえ (目)の姿、メスガタな (が) わり
なあ (悪い) 言うて。目な (が) しよぼしよぼしたり
なんやら (何か) おかしな目しとる (して居る) 人な
(が) 有るやんな (でしょう)。あのひた (人は) メス
ガタな (が) わりなあ 言うて、ひがらめ やったり
なあ (だつたり)。ひがらめや (と) 言うな (のは) 片
いっぼ (片一方、片側) こつちや (こちら) 向いとて
も (て居ても) 目尻な (が) あつちや (あちら) 向い
とる (ている) 人な (が) 有るやんな (でしょう)。あ

いななのあ (あんなのを) ひがめや (だ) ひんがらめや 言うて。

めずらし (めづらし) (珍) 【形容詞】 1) 珍しい。(尾)
2) 懐かしい。[会話] 1) メズラシなあ (です) こや (これは) 言うて、見た事無いよおな ええもん (よい物) 見ると こや (これは) メズラシもんやなあ (物だ) 言うて 変わったもん (物) 見ると。食べる もん (物) でも 此処らに 無いよおなのお (のを) あんたな (貴方が) 持て (持って) 来てくれると、メズラシもんばっか (物ばかり) よばれて (もらって) 言うやんか (言います)。2) ほすと (すると) 長いこと (期間) 会わん (ない) 人におおて (会って) おおた (ああ) メズラシやんかい (です) 言うて、メズラシ人ん (に) おおたなあ (会った) 言うて。此の時メズラシ言うな (のは) めったん (殆ど、絶対に) 見やんもん (見ない物、者) 言う意味と 一緒の意味やわい (です)。此の時は 懐かし (懐かしい) 人におおた 言うのを 懐かしなあ (かしいです) 言うて 言やええんけど (言えばよいが) メズラシニア 言うて。いつから (ずいぶん前から) おおた事、のおて (なくて) おおた (ああ) メズラシ人ん (に) おおたなあ 言うて。

めずらしひと 【名詞】 たまに来る人 珍に逢う人

めずり 【名詞】 思い違い。見込み違い。見誤り。(安)
[会話] 目違い言うのを こや (これは) まあ おんな (俺の) メスリやったなあ (だった) 言うて 見損いしたると (してしまおう)。

めずれ 活けて有る魚の半死状態。[会話] 魚な (が) メスレン (に) なって来た言うやんかい (言います)。半死ん (に) なって浮いてくんのをなあ (来るのです) あや メスレン (に) なって 浮いとられ (ている) 言うけどなあ (言います)。

めせめせ 【形容詞】 一面に密集して居るさま。一杯になって居るさま。(志 (布施田)、鳥) [会話] メセメセ ぎちづめ (きっちり詰めてある、一杯押し込んで有る) あんのなあ (有るのを) メセメセ にして。メセメ言うの (のを) メセメセ言うの (のです)。反対やなあ (です)。メセメせん (に) したとか せめせめん (に) したとか。ぎちづめん (に) して言うて、きっちりと あきめな (隙間が) 無いよおん (に) すんの (するのを) ぎちづめん (に) して言うて。今日は 舞台小屋 (芝居小屋) も ぎちづめやれ 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。満員の事なあ (です)。

めせめそ 【副詞】 弱々しく泣くさま。気弱くすぐ涙ぐむさま。[会話] メソメソすんなまあ (するな) 言うて、いつ迄も 泣いとると (て居ると)。大泣き (おおなき、大声で泣いて居るさま) しとんのやなしん (して居るのでなくて) いつ迄 なあごお (長く) しぶしぶ 泣いとんのおを (て居るのを) メソメソ 言うなあ (言います)。メソメソしとらんと (して居なくて) まあ (もう) やめえまあ (止めなさい) 言うて。

めたか。めだか 【名詞】 鮑の一種。呼吸孔が高くなって居るもの。(志、鳥 (管島)) [会話] めえな (目、呼吸孔) たっかあいねてや (高いのです)、メタカ言うな (のは)。ほいて (そうして) 裏 (肉の表面) も ちよいと (少し) めおび (女鮑) とも違うし 黒 (おのこ、雄貝) とも違うね (のです)、メタカはなあ (です)。へび (外套膜) の方な ちよいと (少し) 違うねてや (のです)。めえ (目) 言うな (のは) 鮑の貝の目な (が) どいらい (大変) たっかみの (高いのです)。ぼこんと たっこおて (高くて) 先な (が) とがとんのお (尖って居ます) メタカの鮑は。めえ (目) な たっかきもんで (高いので) メタカ言うんやんかい (言うのです)。

めたくた 【形容詞】 目茶苦茶

めたたき (目叩) 【名詞】 まばたきすること。まばたき。(志 (浜島)、張、北)

めたて (目立) 【名詞】 鋸の歯のすりへったのをやすりでこすり、切れをよくする事

めたてや 【名詞】 鋸の目立を業とする人 [会話] メタテヤ 言うて、かんど (鋸) のめえ (目) たてん来る人な (が) 有って、ぬきたいとこ (暖かい所) で がしがし 言うて めえ立てとりおったわい (立てていました)。

めちか (目近) 【名詞】 目に近い所 周辺

めちがい (めちがひ) 【名詞】 見込み違い。見誤り。

めちがえ (めちがへ) (目違) 【名詞】 見そこない。見込み違い。

めちやくそ。めちやくちゃや 【名詞】 【形容詞】 目茶、滅茶を強めた語。まるで道理に合わない事。筋通の通らない事。程度の甚だしいさま。非常に混乱したさま。(鳥) [会話] メチャクソ言うんかな (言うのですか)、メチャクチャ (目茶苦茶) 言うん (言います)。メチャクチャやなあ (だ) こやまあ (これは) 言うて ごちやごちやん (に) 置いて有ると こげん (こんなに) メチャクチャん (に) 置いてまあ言うたり (言ったり)。もの言うのに あや (彼は) メチャクチャ 言う言うて。あんななあ (彼のは) 訳け判らずやよって (道理が判

らない者だから)メチャクチャやどお(だ)言うて
理屈に合わん(合わない)事言うて 道理に合わん事
言うたり。人な(が) 並んどる(で居る)時でも 順
序が いがんどる(歪んで居る)と メチャクチャン
(に) 並んどらんと(並ばずに)真っ直並べまあ(並
びなさい)言うて。

めづかい(めづかひ)【目遣】【名詞】視線の方向 見て
いる様 上目づかい 色目づかい等

めつき(目付)【名詞】目の物を見る様子

めつけ(目付)【名詞】監督者。子守。[会話] メツケ。
子供らんも(にも) メツケな(が) なけな(なけれ
ば)危のおて(なくて) はざんわれ(駄目だ)言うて。
もりな(子守が) なけな はざん 言うのを、メツケ
な(が) なけなはざん 言うて。メツケしとれまあ
(して居なさい)言うて、みとれ(見ておれ)言う事
を。監督しとれ(しておれ)言う事や(です)。

めつける(目付)【他カ下】見る。見出す。探して見
出す。ミツケル(見付)の転(大言海)(員、上)

め、つける 見込んでいる

めっこお【名詞】魚。あやめかさご。カサゴ属フカササ
ゴ科。カサゴによく似るが、胸鰭軟状が17本で第2
眼下骨の上縁に鋭い一棘があるので区別出来る。体
は黄赤色。[会話] あっかい(赤い)魚 メッコオや
(だ) 言うやんかい(言います)。あかのお(赤い
のを)口のおつきいの(大きいのを)、メッコオ よけ
(沢山)釣って来て言うて。ちっちゃあい(小さい)
のばっか(ばかり)釣って来ると こや(これは)○
○屋ん(の)爺で かあぺえやれ(だ)言うてなあ
骨ばっかでなあ(ばかりで)口入れると かあぺえ
え言うて 吐くもんで(ので) かあぺえばっかやよお
(ばかりです)言うて、ちっさいの(小さいのを)釣
って来ると。ちっさいのおでも(小さいのでも)喰わ
えて来るもんで(ので) はずして置くやんない(でし
ょう) そいなの(そんなのは) ぜん(銭) にならせん
もんで(ならないので) 家い(へ) もて(持って)来
て おつけい(味噌汁へ)入ると だしな(が)出
て 美味いねてや(のです)。みい(身)は かあぺえ
で 骨ばっかで(ばかりで)。

めっそお(めっそう、めっさう)【減相】【名詞】1)と
んでもないさま。程度の甚だしいさま。めっそうな。
とんでもない。あるべき事でない。(津)2)礼を言わ
れた時などに返す挨拶の言葉。どう致しまして。(北、
津)[会話] 1) メツコオも無い言うて ちごた(違っ
た)事言うて メツコオも無い事言うなまあえ(言う

な)言うて 言う時な(が) 有るやんかい(有ります)。
仕事 失敗したても(しても) メツコオな事したたな
あ(してしまった)言うて。理屈に合わんよおな事言
うと メツコオも無い事言うやんかい(言います)。
2) ほすと(すると)人に物やつて 礼言われると メ
ツコオな言うて そいな事(そんな事) 言わんでも
(言わなくても) ええのに(よいのに) 言う訳やろな
あ(でしょう)。ちよいとのもん(少しの物) やっただ
けやのん(だのに) そげん(そんなに) 礼な(が) い
ろかい(要りません) 言うよおな意味やなあ(です)。

めっそお(めっそう)【名詞】大体の見積もり。目測。目
分量。おおよそ、又は計量しないで目分量で売買する
事。(志(布施田)、北、尾)[会話] メツコオで見る
秤かけたりすんの(するのを)。計ったりせんと(せ
ず)に 目で こやまあ(此れは) 幾らやなあ(だ)一キ
ロあんなあ(有ります)一キロ足らんなあ(不足して
居る)言うて、目で見た加減(様子)で言うのを メ
ツコオ言うし。

めっそおな 思いもよらない。とんでもない。(鳥、一、
北、上、阿)[会話] メツコオ言うやんかいなあ
(言います)。ちごた(間違った)事言うとなあ めっ
そおもない そいな(そんな) 事な(が) あるか(有
るものか)言うて。メツコオ言う時は そいな(そ
んな)事おもてもおらへん(思っても居ない) 変った
事をしたおりん(時に) おおた めっそおも無い そ
げな(そんな) 事な(が) あるか 言うて。

めっそうもない(減相も無い) 1) 思いもよらない。と
ても無い。甚だしい。めっそお参照 2) とんでも
ない。どう致しまして。(鳥、員、多、上、阿、張)

めった(減多)【形容動詞】1) 絶対。決して。(志、
鳥)2) 稀に(三)[会話] 1) こいな事な(こんな事
が) メッタん(に) あるかれ(有りません)言うて。
メッタん(に) しやせんわれ(しません)、メッタん
(に) 言わせんわれ(言わない)言うたり。メッタ
な事言うて、メッタん そいな事(そんな事) おらしや
せん(俺はしない)言うて、絶対しやせん言うよおな
意味やかなあ(でしょうか)。メッタや(だ)言うて
絶対言う事やろなあ(でしょう)。メッタな事 そいな
(そんな)事言うたらはざんどお(言っではいけな
い) メッタな事すんなよおてやらなあ(するなとか)
メッタん(に) 負けやせんわ(負けません)言うて。
わり(悪い)事すんなよお 言うて メッタん(に)
しやせんわい(しません)言うて、絶対言う事やなあ
(です)。走りやいしたてて(競争しても) おら(俺

は) メツタン (に) まきよかれ (負けるものか) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。

めった (減多) 【**形容詞**】 むやみやたらであるさま。思慮分別のないさま。

めったぎり 【**名詞**】 乱暴に 目茶苦茶に切る (鳥)

めったくそ 【**名詞**】 【**形容詞**】 無茶苦茶 (阿、張、名)

めったな 無茶なこと。思慮分別のないこと。

めったなこと 【**名詞**】 絶対がないこと。有り得ぬこと。決して。(鈴郡) 【**会話**】 メツタナコト そいな (そんな) 事言うたら (言ったら) はざんどお (駄目だ) 言うてなあ。絶対言うたら はざんどお 言うのなあ (です)。言うてはざん (言っていけない) 事をなあ、絶対言うたら (言っては) いかん言う事を めったん (に) 言うたら いかんどお (いけない) 言うて。

めったに。めったん 【**副詞**】 決して。絶対に。(志、度、桑市) 【**会話**】 一緒にの事や (です)。その人によるし話の都合で メツタ と言うたり メツタン 言うたりなあ 絶対に言う事や (です)。

めったやれ 1) 絶対だ 2) 無茶苦茶だ

めっちこ 【**形容詞**】 極少量。【**会話**】 メッチコ ほどけ (程) 言うて ちよいと (少し) の事をなあ (です)。目糞と一緒に (です)。メッチコ ほどけ 呉れまあ (小さい) 言うて、ちよおいと (少し) 言う事なあ (です)。メッチコ 程 よせたれまあ (寄せてやれ) とか、少し寄せたれ 言うのを ほんどん (本当に) 量が少ない メッチコ 程言うて、せえ (背) の ひっくい (低い) ちっさい (小さい) 言うよおな時も メッチコ やなあ (だ) 言う時も有るけど (有ります) ちっさい 事を。

めっちこほど 極少量 めっちこ参照

めっちゃ 【**名詞**】 【**形容詞**】 1) 目茶苦茶。全く道理に合わないこと。ひどい状態にあること。(志) 2) あばた面 不美人 (志) 3) 非常に (鈴市、安、津、久) 【**会話**】 1) メツチャクチャ やあれ (だ) 言うてなあ。2) そして 器量のわり (悪い) 人 メツチャ やな (だ) あや (彼女は) 言うてなあ。

めっちゃくちゃ 【**名詞**】 【**形容詞**】 目茶苦茶。非常に度はずれていること。(北) 【**会話**】 メツチャクチャ 言う人も有るし、めっちゃくちゃ言う人も有るし。のらな (お前の) 言う こた (事は) まるで めっちゃくちゃ やなあ (だ) 言うて、野暮言うたり 判らん事言うと。

めつぽ (飯粒) 【**名詞**】 御飯粒。めし参照 (志 (布施田))

めつぽほどき。めつぽほどけ 少し、少しの量

めつぱ 【**名詞**】 曲げ物の弁当入れ。飯桶。面桶 (めんつ

う)。(志 (浜島、布施田)、鳥 (国崎)、四、松、多、度、北、南、熊) 【**会話**】 メツパ 言うな (のは) まげもん (曲物) の事、ちっちゃいの (小さいのです) 蓋な (が) 無いの (のです)。蓋は シルメツパ (汁) 言うの な (が) 有るやんかい (有ります)。メシメツパ 言うのは 此の位 で (径約三寸) シルメツパ 言うのは メシメツパ に重なるの (のを) 沖行く時は 二つ重ねて さいら (秋刀魚) 舟や (とか) 鯉舟い (に) 行く時は 持ってきおったわい (持って行きました)。汁メツパと メシメツパ と有って おっきい (大きい) のへは 汁もるもんで (入れるので)。舟やよって (だから) まけてくと (こぼれて行くと) はざんもんで (いけないので) おっきいの (大きいのを) すんねやろ (するのでしょうか)。あや (あれは) 五合位入るやろな (入るでしょう) シルメツパ は、メシメツパ は 三合位やなあ (です)。メツパ は まげもん より ふつかい (深い) ですよ かさな (高さが) あ (高さが)。まげもん は ちよいとあっさい (浅い) し 此の位 やし (約二寸です) メツパ は 此の位 (三寸) 有るわい (有ります)。かさな (高さが) たっかい (高い) ですよ ほいて (そうして) まあうて (丸くて)。そして (そうして) メツパ で 計りおったやんかい (計って居ました) 米や麦 を。大漁すると 勘定すんの (計算するのが) ややこしもんで (面倒なので) めつぱで計って 昔は勘定しよおった (して居ました)、言うとその位 大漁した時 な (が) ありおった (有った) 言う事やなあ (です)。黒潮かけたら メツパ で 金 やれ (だ) 言うて 黒潮 な (が) 来ると メツパ で計る程大漁する言う意味やなあ (です)。

めつぱち (目撥) 【**名詞**】 めだか。目高。日本の淡水魚中最も普通に見られる物の一つ。(志 (御座、浜島、布施田、越賀、神明、鶴方、立神、安乗)、鳥 (石鏡)、桑郡、桑市、伊、南、熊) 【**会話**】 メツパチ。川を 泳ん どる (泳いで居る) たあ (田) の みなくちもと (水の取り入れ口) 行くと メツパチ な (が) ちっちゃあ いのおな (小さいのが) おるやんかい (居るで有りませんか)。めえ ばつかみ たよおん (目ばかりのように) しとんの (して居るのが)。目ばつか おつきいて (大きくて) そやもんで (それで) めだか 言うんやろな (言うのでしょうか)。

めつぼう 【**名詞**】 密封

めつぶり 【**名詞**】 見逃してやること。【**会話**】 目こぼし しといてくれ (しておいて下さい) とか、メツブリ しといてくれ とか言うて、わり (悪い) 事したても

(してしまっても) 黙っていてくれ 言うて、他人に言うと みとみない (見苦しい) 事な (が) あると なつとも (何とも) 言わんと (言わずに) 目つぶつと いてくれ 言うて。口止めすることなあ (です)。

めつぶる 1) 目を閉じる。2) 死ぬ。3) 見て見ぬ振りをする [会話] ₃₎ メツブル 言うてなあ。見て みやんふうしとけ (見ないふりしておけ) 言うてなあ。めえ (目) ふさんどいて (ふさいでおいて) くれえ (下さい) まあ言うのなあ (です)。ちよいと (少し) 仕損いしたたり (してしまったり) 失敗したたり (してしまったり) すると まあ それ 表い (へ) 出さんと (出さずに) メエツブツトイテくれえ、お前な (が) 言うて。₂₎ 死んだ言う時ん (に) まあ メエツブツタンてわれ (そうだ) あのひた (人は) 言うてなあ。

めつらかわき 【名詞】 ずうずうしい事、又その人。(志 (布施田)) [会話] メツラカワキ。のぶとい (ずうずうしい) 事を言うの (のです)。図太いのおを (のを) メツラカワキ 言うて、のぶとい 事を あや (彼は) めつらかぶつとて (ていて) 言うて。

めづらんうつる 思い出す。目に浮かぶ。[会話] 堤の橋の真ん中で 唐傘、枕にしてやった こんな 臭いばば 見た事ない。ちり紙 三帖 ただ捨てた。言うて 踊って あんな (あれが) メズランウツトンネ (映っています)。

めでたい 【形容詞】 馬鹿

めど (目処) 【名詞】 1) 小穴。針のめど。みず (針孔) から転じた (日本国語大辞典) めず参照 (志 (浜島、布施田)、鳥 (国崎)) 2) 見込み。望み。目先。(志 (浜島)) 3) 隙間。[会話] ₁₎ 針のメドやし (です)。なんやかや (何彼) 穴な (が) あいとるとこ (あいて居る所) メドや (だ) 言うて。₃₎ メド 変らな (なければ) 早よ変ろや (早く変りましょう) 言うて、波な (が) えらいもんで (高いので) ちょおいと (少し、間隔の少ない) のとこ (所) 抜けんねもんで (抜けるので) 早よ (早く) なま (波と波との間) のうちん (間に) メド 変らな 言うて よおしよおった (よくして居ました)。メドな (が) あんねてや (有るので) 島のあわいな (間隔が) 岩な (が) 有って そい なとこ (そんな所) を メドや (だ) 言うて。ちっさい あい (小さい) 穴が あいとたら (て居たら) 皆 メドや (です)。₂₎ 先が見えん (見えない) 言うのも メドが見えん (見えない) メドが立たん 言うて 言うやんかい (言います)。メドが通らんで (通らなくて)

言うて 先が見えん 事を メドな 通らせんわれ (通らない) 言うて 商売しとても (して居ても) 先な (が) 見えやん (見えない)。メドな 立たんなあ 此の 商売や (は) 言うて。商売メドな (が) 立たん 言う事は 下火ん (に) なった 言う事を。メドな (が) 通らん 言うのは 先向いて行かれやせん (行けない) 言うて 見込みな (が) 無い 言う事や (です)。

めどなたたん。**めどなとおらん**。**めどなみえん** 将来の見通しが見えない。めど参照 [会話] 先が見えん 言うのも メドナ (が) ミエン メドな タタン 言うて。先が見えん 事を メドナ トオラン で言うて。

めとはなのあいだ 極めて近い所

めとぶれ 【名詞】 目の飛びだして居る事、又その人。[会話] めえな (目が) とぶれとるもんで (とびでているので) メトブレ。

めとぼ 【名詞】 1) 視力の鈍い事、又その人。(志 (鶴方、神明)) 2) 探し物の下手な人。[会話] ₁₎ メトボ めえな (目が) めえのくい (見えにくい) を メトボ。鶏目みたいなの おを (のようなのを)、歩くの とんぼ 押さえる (採る) よおん (に) 足たっこお 上げて 歩いとると (て居ると) メトボな (が) 歩くよお ななあ (ようだ) 言うて、目のめえん (見えない) 人ら (は) 足たっこお (高く) 上げて するわい (します)。敷居や (とか) なんや (なにか) 有るや知らん (有るか知れない) おもて (思って) たっこお 上げんねかい なあ (上げるのでしょうか)。鶏目の人ら やかのお (でしょうか) メトボは、鶏目の人 もだ 七つ下がる と夕方 になると 目な (が) 見えやせんもんで (見えないので) とびやげ あるいて (つまづいて) くるやん かい (来ます)。目な (が) うとい (鈍い) 人らは 目な (が) めえやせんもんで (見えないので) とぼとぼ と 危ないよおん (に) して 歩いとるわい (て居ます)。あや (彼は) メトボや なあ (だ) 言うて、目な (が) 見えにくい ねやろなあ (にくいのでしょうか)。めえやせんのは (見えないのは) 盲や けどなあ (です)。メトボ 言うのは とぼとぼ しとんのおを (して居るのを) メトボ。めえとんねけど (見えて居るのだが) 危ないよおん (ように) して うす見えん (少し見えて居るに) しとんのおは (して居るのは) 危な そお にして 歩いとんの (て居るの) メトボな (が) 歩くよお ななあ (だ) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。七つ下がれば 鶏目の病 言うて 七つ下がる とめえんで (見えなくて) ひんなか (昼中) は かなり 見えとんねけど 夕方 になると めえやせん の。

めどみる 相手の様子をさぐる。内心をみすかす。つけ込む。(志(布施田、甲賀)、上、阿、張)

めなかつたい。めなかつたい 目がかつたい。夜が更けても眠くならないで、いつ迄も起きて居ること、又その人めえなかつたい。[会話] 寝てかせんのを (いかないのを) 言うんなあ (言うのです)。ねぶた (眠く) 無いのをなあ、めな (が) つよい言うけどなあ (言います)。あのかあ(子は) メエナ (が) カトオテ (かたくて) いつ迄起きとられ (ている) 言うて、あのかあ(子は) ねぎたのおて (寝なくて) いつ迄 起きとて (ていて) 言うてなあ。メナカッタイも つよしも 一緒にの事やけどなあ (です)。

めなさめる 驚く。[会話] メナ サメル言うて、夜中ん (に) しょんべ (小便) しに起きて ねやれやせん と (寝れないと) メナ (が) サメテ 寝やれやせん (寝れない) 言うて。ぱっとしたもん (物) 見るとメナサメルよおななあ (ようだ) 言うて、綺麗な明るいもん (物) 見ると メナサメルよおななあ 言うて。

めなしぶくる。めなしぶる 眠くて臉を開けておれない。[会話] ねぶとおて (眠くて)、ねぶたい時 (眠い時) メナ シンプルよおん (に) なってくるなあ (来ます)。ねぶたいの (のを) しんぼしとると (辛抱して居ると) 目な (が) なったらしてきおった (なんとかなつて来て居ました)。メナシンプル言うて しぶくるよおん (に) して来るわい (来ます)。ねぶたいの (のを) しんぼしとると。あいな時 (あんな時) に言うんやる (言うのでしょうか) メナシンプル 言うて。

めなつよい いつ迄も眠くならない。夜更しが平気で有る。[会話] いつ迄 ねぶたない (眠くない) のを メナツヨイ 言うけどなあ (言います)。

めなでる 芽が出る。成功する。幸運が訪れる。出世する。[会話] あの家や (は) 落ちぶれとたけど (ていたが)、今し (今) ちよいと (少し) メナ (が) デテキタ なあ言う時も有るし、種蒔いて めえな (芽が) 出てくんのも (来るのも) 有るし。木の芽な (が) 三月の木芽つゆで メナ (が) デテキタレ (来た) 言う時もあるしなあ。

めなはやい 目が早い。1) すぐ目覚める。2) 見つけるのが早い。[会話] ¹⁾ メナ ハヤイ。メエナ (目が) ハヤイ もんで (ので) ちよいと (少し) かたつ しても 目さますにげ (人間) は メナ ハヨオテ 言うて。

めなまう(目舞) 非常に忙しいさま。[会話] 忙がして (しくて) メナマウよおな (ようだ) 言うて。ほん

(本当に) 忙がして忙がして メナマウくらいやったよお (程だった) 言うて、てんてこまいやったよお (でした) 言うて。忙がしん (に) 言うしだ (言いますし)。

めぬけ【名詞】 魚名。カサゴ科の深海魚の内、赤色を帯びたもの。水圧の変化で目が飛び出すところからこの名がある。[会話] 魚の名前で 目な飛び出しとる (て居る) メヌケや (です)。めんつ 言うけど (が) 目な (が) 飛び出しとんな (て居るのは)。目な (が) 飛び出しとんの (て居るのは) めんつの目みたいなあ (のようだ) 言うて、出臍みたいん (のように) ヒュツ と 飛び出しとんね (出して居るのです)。きんとき も よお (よく) 飛び出しとるけど (て居るが) めんつの目は 又 違うね (違うのです)。出臍な (が) 出たよおん (ように)。めんつの目みたいなあ 言うて 目な (が) 出目の人は

めねぶる 1) 目を閉じる。2) 見て見ぬふりをする。黙認する。3) 死ぬ。[会話] ³⁾ 死んでた (ていった) 言うのを、メネブル。まあ 死んだんでわれ (死んだそうだ) 言うのなあ あの人 今し メネブッタんでわれ (そうだ) 言うてな。

めのかあ【名詞】 目の皮。臉。[会話] 腹のかあな (皮が) ふくれたや (たら)、メノカアな たるだ (垂んだ) 言うて。ねぶとなつて (眠くなって) 来るとなあ 臉な (が) さがって来るやんない (でしょう) そやもんで (それで) メノカアな たるで 来た 言うてな。

めのぐい【名詞】 目脂などを拭く小さな布。めのごいと同じ。[会話] メノグイも置かんと (置かずに) もてたねない (持って行ったのだ) 言うてなあ。隠居したり 別れたりする時ん (に) なんやかや (いろいろ) わがとな (自分の) 身の廻りのもん (物) もてくとなあ (持って行くと)、おおた なんもかも (なにもかも) 全部もてて (持って行って) メノグイも置かんともてた (持って行った) 言うてなあ。メノゴイ言うて めしるな (目脂が) 出て来ると 手拭で 拭きおったもんで メノグイ 言うて。手拭で めしる 拭きおったもんで (拭いて居たので) めえ (目) 拭く 手拭腐ったよおな、てぬげえ (手拭) も 置かんと いた言う事やるなあ (でしょう)。

めのくりだま【名詞】 目玉。眼球。メノクロダマの転(大言海) (志(浜島)、桑市、三、鈴市、安、一、松多、度、伊、南、熊) [会話] メノクリダマな (が) 飛び出すくらいやった (程だった) うもおて (美味しく) メノクリダマな 飛び出した 言う時もあるし (有

ります)。なんやかや (何彼) 美味しい、ごっつお (御馳走) 喰うと、うもおて、うもおて (美味くて美味くて) 目な (が) 飛び出てく (行く) 程、美味かった言うて。目玉なあ (です)。目玉な (が) 飛び出して来る程 美味しい言うのを 飛び出て来る程 美味かった。

めの子 (目の子) 【名詞】 きちんと測ったり、計算するのではなく、ざっと目を通して見当をつける事、目算。目の子勘定。目の子算の略。めっそお参照 (志 (布施田)) [会話] メノコでいこやんかい (行きましょう) 言うて、めっそお (目分量) で行くのを、メノコでやられた言うて。ちょいと (少し) の時は かけんの (秤量するの) めんどくさい (面倒臭い) し メノコしたれ (してやれ)。

めのごい 【名詞】 目脂などを拭く小さな布。[会話] メノゴイ言うて、目汁な (目脂が) 出て来ると、手拭な (の) 薄汚いよおなので のごいおったわい (拭いて居ました) それを メノゴイや (だ) 言いおったの (言うて居たのです)。

めのこぼ 【名詞】 目の子勘定。目算。正確に秤にかけないで、見ておおよその見当をつけること。[会話] メノコボでいこやんかい (行きましょう) 言うて、めっそお (目測) で行くのを ちょいと (少し) の時は かけんの (秤量するの) めんどくさいし (面倒臭い) ので。

めのしよおがつ 【名詞】 珍しい物を見た時

めのたま 【名詞】 目玉。目。眼球。(尾、南) [会話] メノタマひっくり返った言うて、ぎろっとねがめんの (睨むのを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

めのたまのくろいあいだ。めのたまのくろいうち 生きて居る間

めのだく 【名詞】 見ると欲しくなる事

めのめのなき 辛い目をする。(志 (布施田)) [会話] メノメノナキや (だ) 言うのなあ (です)。辛いめえ (目) する言うのなあ (です)。おおた あの家や (は) 姑親な (が) むつかして 嫁さんな (が) メノメノナキすんねてわい (するのだそうだ) 言うて、物妻い しんぼすんのを (辛抱するのを)。

めば 【名詞】 見た感じ。[会話] とおし (篩) で ふるたると (振るってやると) こえんよお (こんなによく) そろて (揃って) メバな (が) ええなあ (よい)。

めはかろて 見はからって。見当をつけて。[会話] たいがい (大略) メハカロテ したかんかれ (しておきなさい)。

めばたき (瞬) 【名詞】 まばたき。(南) [会話] めえ

(目) たたく言うのを 目 ばちばち叩くのおを (のを)。メバタキもせんと (せずに) 見とる (て居る) 言うやんかい (言います)。まばたきを メバタキ。

めばちこ 【名詞】 眼瞼に出来る腫物。麦粒腫。(鳥、久、阿、張、南) [会話] メバチコ言うて めばやないんかい (でないのですか)。

めはちぶ 【名詞】 目測。目分量。[会話] メハチブ言うな (のは) はかりかけんと (秤かけずに) めっそおでみんの (見るのを) メハチブ。此の位やったら (だったら) 百匁位あるやろ (あるだろう) 言うの (のを) めっそお。

めはかろて 見はからって。見当をつけて。[会話] たいがい (大略) メハカロテ したかんかれ (しておきなさい)。

めはな 【名詞】 見通し 見込み メハなつく

めばや (目早) 【名詞】 【形容詞】 見つけ出すのが早い 見て心付くのが早い 目敏い

めばやい (目早) 【形容詞】 目をつけるのが早い 目ざとい

めはりだけ 【名詞】 注連縄をくくりつける竹。[会話] メハリダケ言うの (言うのです)。神さんへ しめなあ (注連縄) する時んなあ (に)、しめな (注連縄) だけやと (だと) 垂れてくるもんで (ので) 竹いなあ (へ) しめな、しばって (くくって) 掛けるわい (掛けます) 竹な (を) ここの (九) 節とか なな (七) 節とか かんじよして (数えて) それを メハリダケ言うの (のです)。メハリダケも 切ってこな (こなければ) はざんわれ (いけない) 言うて しょんがつん (正月に)。

めぶり 【名詞】 麦粒腫。めぼ。めばちこ (志) [会話] メビリな (が) 出来ると はつれん (引きつりに) なる言うたけど (言ったが)、今しの (今の) にげ (人間) は はつれな (が) あんの (有るのを) 見たこた (事は) 無いなあ (有りません)。

めぶくろ 【名詞】 海藻。ふくろのり 褐藻類カヤモノリ科。波の静かな海岸に生える。葉状体は黄褐色の袋状、径2~3 cmから20 cmに達す。[会話] 若布みたよなのな (のようなのです) メブクロ言うのは。だんぶくろん (袋に) なって メブクロな (が) はえん (梅雨に) になると 皆 抜けて来て ないざ (渚) 一杯 よやがって来るわい (寄り集まって来ます)。めえ (若布) のなあ うっすういの (薄いの) ふくろんでなあ (ふくらんで) 無数ん (に) ももん (丸い物に) なって つなんどんの (連なっているのです) シェウ

クリームみたよん (のように) あげなのおな (あんなのが) 一杯つなんどんの (連なっているのです) シェウクリームみたよん ふくろんだとこと (膨れた所と) へっこんだとこと (所と) 有ってなあ。

めぶし【**雌節**】**【名詞】** 脛の腹節で作った鱗節

めぶた【**名詞**】まぶた。眼瞼。(志(片田、布施田)) [会話] まぶたの事 メブタ言うのなあ (のです)。メブタな (が) 腫れて言うて。めびりかして (目の出来物と見えて) めえ (目) 腫れて来て びるも言う草な (が) たあ (田) に有って 目な (が) 腫れて来ると。めびり びるも採って来て貼れ言うて 貼ったると (てやると) 治ってくてや (治って行くのです)。“畠にとおぶし 田に びりも 本家に小母は いなんもん (要らない物)” 言うて 一番すかん (嫌な、好まない) 草や (です)。

めぶら【**名詞**】 脛の裏 めうらの訛 めぶらんうつる 参照

めぶらんうつる。**めぶらんおわる** 目に浮かぶ。脛に浮かぶ。[会話] めえいなあ (目に) めえ (目) の前い (に) ちらついてくんの (来るのです) 思い出して来てなあ、あいな (あんな) 事な (が) 有ったなあ おもて (思つて) すると、メブランオワル言うの (のです)。脛の母や (だ) 言うのな (が) 有るやんない (有るでしょう)。おっかあ (母) に 逢いたい時には 目をつぶや (れば) 脛の中で おっかあ が 現れる言うて 脛に浮かぶ言うのを。メブラ言うて 脛。おわる言うの 被さる。めえいなあ (目に) 脛の裏い (に) 浮かんでくんのをなあ (来るのを) メブランオワル言うてなあ 見えて来る様な気な (が) するやんかな (します) 脛におわるなあ。

めぶんりょう (めぶんりやう) (目分量)【**名詞**】 はかりで測らずに、見ておおよその分量の見当をつける事。目測。[会話] メブンリョオで たいがい (大体) 此の位あんなあ (あります)。

めぼ【**名詞**】 麦粒腫。ものもらい。睫毛囊についた脂腺、或いは付近に有る汗腺に生じた化膿炎症。眼瞼のその部が発赤痒痛、腫張し時がたてば化膿する。めいぼの略か。メホイト (目乞食) の略訛か、モノモライも転義か (志(浜島、布施田)、鳥、員、鈴市、四、津、一、久、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] メボ言うな (のは) 目の下の中へ 出来てくんの (くるのです)。いんぼみたいん (疔のように) して、目が 腫れて来るやんかい (来ます)。目の下へ 目の中やなしん (でなくて)。井戸 覗いて

(て居て) メボな (が) 落つた (て行った) 言うて 井戸へ なんか、ちっちゃいもん (なにか小さな物) 放り込んで (てやつて) しよおったん (して居たのです)。肩な (が) 凝ると よお (よく) 出来て来て 算盤珠みたいな (のような) 形になって 下まぶたの縁へ 出てくんの (来るのです)。うわまぶたな (上眼瞼が) 腫れとる (て居る) 人も有るし (有ります)。

めぼし【**形容詞**】 著しい 値打ちがある めぼしい

めぼそ【**名詞**】 目の細い人。不美人。[会話] メボソの じよろん (女郎に) 乗るもん (者) は、無いけど、口ぼそのじよろん 乗らんもん (者) は、無い言うて。目では だまされやせんね (だまされません) 目で見えるものは みや、ええ (見ればよい) と わり (悪い) は 判るけど (が) 口は上手ん (に) 言や (言えば) わり 事でも 判らせんやんない (判らないでしょう)。

めまいなする 眩む。(志) [会話] めえな (目が) 廻る事 メマイナスル言うて 磯 (海女作業) 行かんとおつて (行かずに居て) たま (稀に) に行くと 目な (が) まいおつたわい (廻って居ました)。若いうち (間) は 目のまうの (廻るの) 知ららつたけど (知らなかったが) 年取つて来てから たま に行くと 目な (が) まいおつた。そすと (そうすると) いりなおす (潜りなおす) と ええねけど (よいが) 始めのうちん (間に) 目な (が) まいおつた。よお (よく) 天井見とると (見て居ると) 天井な (が) くるくるする言うて 目くさんどても (閉じて居ても) 天井な (が) くるくる廻るのなあ (のです) メマイナスル。じっきん (すぐに) 目まいな (が) して言うて ぼさあんと座つたり 転げてたり (て行つたり) するにげな (人間が) 有るやんかい (有ります)。

めまぐるし (目紛)【**形容詞**】 1) 忙しい。2) 目障りになってうるさい。(南) [会話] 1) ものすごお (大変) 忙がし (忙しい) 事を メマグルシ言うんやんかい (言います)。2) 子供らな (が) 回りで騒いで うるさいのを 騒がしわれ (ぞ) よけさおぐな (あまり騒ぐな) そいな (そんな) 時も のらな (お前達が) そこらで そんげん (そんなに) うろろうと まいまい まいまいしとる (している) と メマグルシわれ (めまぐるしいです) 言う事も言いおつた (言つて居た)。

めまぜ【**名詞**】 目でする合図

めまつ (雌松)【**名詞**】 赤松。(志、鳥、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、亀、安、一、上、張、阿、度、伊、北、

南、熊) [会話] メマツや (とか) おまつや (雄松だ) 言うて、ええ (よい) 門松には メマツしやせんやんかい (しません)。松茸な (が) 生えんのおは (生えるのは) メマツ。メマツは 松葉な (が) やいこい (柔かい)。

めめ 【名詞】 器量。顔の様子。(津)

めめくじ 【名詞】 目で合図する事。[会話] メメクジ して言うて めえ (眼) ばちばち してなあ メメクジ したね (したのだ) 言うて、おらな (俺が) 行たら (行ったら) メメクジ したない (した) 言うて、見付けられるとなあ メメクジ しとんねよお (しているのだ) 言うて、内緒しよお (しよう) 言う事 目で合図 しとる (している) 事なあ (です)。あんな (彼が) 来たけど (が) あれ (彼) 仲間に入れまいや (入れないでおこう) とか、此処に何か有るけど (が) あれん (彼に) 隠しとこや (ておきましょう) とか言う時ん (に) 目で合図 してなあ。

めめくそ 【名詞】 目糞 眼脂 (一)

めめこ 【名詞】 内緒。[会話] メメコ しよおや (しましよ) 言うてな、メメコ やどお (だぞ) 言うて なん しよやどお (内緒だ) 言うのなあ (です)。メメコ や (だ) 言うて めえくさん でなあ (目ふさいで)。

めめさだめ 【名詞】 天然痘。みめさだめ [会話] メメサダメ 言うのな (が) ほん とやねえんかい (本当で無いのですか)。めめな (が) ええ (よい) 言うやんかい (言うではありませんか)。器量な (が) ええ 言うのを。あや (彼女は) めめな (が) よおてなあ (よくて) 言うね (言うのです) メメサダメ 言うのは言うけど (が)。

めめし (女女) 【形容詞】 いくじが無い 未練がましい

めめず 【名詞】 みみず。みみずの訛 (志 (御座、布施田、船越、志島、国府)、鳥 (鳥羽、加茂)、桑市、桑郡、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南、熊) [会話] みみず の事を メメズ 言うの (のです)。畑のどて (土堤) 刈りん (に) いて (行って) メメズ の大きなな (が) 鉢巻 した 出て来ると いやらして (嫌やらしくて)、嫌いで、小指程 あんのな (有るのが) ぞろ と 出て来ると。みみず 言わんと (言げに) メメズ や (です)。みみず は 熱さまし (触熱剤) でのお、あれ 煎 じて、昔や (は) 薬 も医者もがいに無いもんで (あまり無いので) メメズ 煎 じて熱さましん (に) 飲んだ事 あるよお。煎 じて飲み おったなあ (飲んで居ました)。そ やけど (それだが) 形は無いし 汁 だけ飲む だけやも

ん (なので) 見い させ せな (見さえしなければ) ええ けど (よいが) 見たら よお 飲まん わい (飲めません)。飲 まされた のお (飲まされました) 風邪 ひい とる (ている) 時。そ すと (そうすると) 昔 や なあ (は) 神 さん へ 供 えた 海老 しよ なが つ (正月に) に。あれ を と つ いて なあ (取って置いて・保存して) あれ 煎 じて 飲む となあ 熱、かり 出し や (と) 言うて、置 いて あ つて。そ や も んで (それだから) あれ は 毎 年 と つ と くの (保存しておくのです) しよ なが つ 飾 った 海老。しよ なが つ (正月) 飾 った 海老 や (で) ない と は ざ ん (だめだ)。あ あ 言 う 時 は 正 月 飾 った のを。そ お す と 黴 も なん も わ か ん となあ (生えずに) か ん から こ (乾燥して) に な つて、じ つ ば ん (立派に) し と んの (しているのです) 中 も なあ。

めめずのほね 【名詞】 肉体労働に不慣れな人

めめずばれ 【名詞】 傷跡などがみみずの形のように、細長く、くねくねと赤く腫れること。みみずばれ [会話] メメズ バレん (に) な つ た ね (のだ) 言うて、綱 で 叩 いて その 当 つ た と こ (所) だけ ふ く れ て 来 る 時 な (が) 有 る わ い (有ります)。それ を な あ み み ず ば れ 言 う の (のです) み み ず の 事 め め ず 言 う ね ん な あ (言うのです)。搔 いた 跡 も なあ 傷 な (が) は れ て 来 る となあ メメズ バ レ 言 う の なあ (のです)。

めめつとる 相手を怖がっている。

めめなええ 器量が良い

めめよし 【名詞】 顔が綺麗である。美人だ。[会話] い ち ち メ メ ヨ シ 言うて 器量 ええ (よい) 言う と 顔 を き ゅ つ と 出 し て 来 て。

めめる 怖がる

めもと (目許) 【名詞】 目の様子 目姿

めやあす 【他サ五】 結婚させる

めやす (目安) 【名詞】 目印 見当をつけるところ

めやね 【名詞】 目脂。目から出る膿。めやにの訛 (志 (浜島)、一、多、度、伊、北、南) [会話] めえ (目) の ふ ち ん (に) や ね (脂) が た ま つ て く ん の を (くるのを)、メ ヤ ネ 言うて、め く そ の こ と を。

めやみ 【名詞】 目の病気、またそれにかかっている人。[会話] メ ヤ ミ め え な (目が) 痛 い。と ん と め (慢性結膜炎) 病 ん で 言 う て 昔 や なあ (は) よ け (沢山) メ ヤ ミ な (が) 有 り お つ た (有りました)。め ご た の ほ ぼ み た よ ん (雌鶏の女陰のように) し て な あ、朝 ん (に) な る と まつ げ (睫毛) と、まつ げ と か ぶ た ん な つ て な あ (堅くなっている) め え な (目が) あ か れ ん で な あ (あけなくて)。

めよお 変な事。みよおちきりん 参照

めよおち **【名詞】** 姓、氏

めよおちきりん 奇妙なこと。(志(片田)) [会話] あの人 ミョオチキリンやなあ(だ)。こやれ(これ)こいな(こんな) 事しとんねない(しているのだ) 言うて、変な人見るとなあ。なんか(なにか)人より変ったよおな事するやんない(でしょう) そすと(すると) ミョオチキリンな事しとんねなあ 言うたりな。おかしなふう(変な格好) しとても(していても) あの人のおう見よまあ(格好見なさい) ミョオチキリンな ふうしとられ(格好している) 言うてなあ。そして ミョオ(変な) な事言うても ミョオチキリンな事言う人やなあ(だ) あのおひた(人は) 言うてなあ。変な事言うのを メョオチキリン。

めよおなんてや 変です。変なのです。[会話] したないのに しよおかい(しましようか) 言うて、メョオ ナンテヤ。

めよと **【名詞】** 夫婦。[会話] 夫婦の事 みよと。みよとな(が) てえつなんで(手つないで) 歩いとんねよお(ているのだ) 言うて、昔 笑いおった(笑って居ました)。今しや(今は) 平気やけどなあ(だが) メョト言うのを みよと言うね(言うのです)。

めれたい **【形容詞】** 1) 目出度い。(志(布施田)、桑市、三、鈴市、安、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾) 2) 馬鹿だ [会話] 2) メレタイねなあ(のだ) あの人言うて、ちよいと(少し) あんごし(馬鹿) のを あやまあ(彼は) ちよいと メレタイねよって(のだから) おかしな(変な) 事言われ(言うて) 言うてなあ。1) 正月も御目出たいし 結婚式も 子供産んでも メレタイしなあ。

めれん **【名詞】** 泥酔。酩酊。ひどく酔う事。(津) [会話] 酔おて メレンや(だ) 言うて、酔おて ぐてぐてに なつとんの(なつて居るのを) メレンになつとる(なつて居る)。昔は メレンになつて よお(よく) 道い(へ) 寝とりおったやんかい(寝て居たで有りませんか)。

めろ(女郎) **【名詞】** 婦女子。女。女の子をののしつて言う語。(鈴市、津、松、上、阿、張、名) [会話] メロやれ(女だ) 言うて。おなご(女) のこお(子供) をなあ メロな(が) 生まれて言うてなあ。おなごのこお(子) を びく言うて。男のこおやと(子だと) たいしよや(大将だ) 言うて おなご のこおやと びくや(だ) とか、びたや(だ) とか言うてなあ よけ(沢山) おなご(女) のこおな(子が) 出来ると

びたん(に) なつてくのなあ(行くのです)。

めん **【名詞】** 雌(志(浜島)、鳥、上、阿、南) [会話] メンは 女を メン。メン言うて。

めんくい(めんくひ) (面喰) **【名詞】** 顔だちのよい人を好むこと。[会話] メンクイやよって(だから) あや(彼は) 言うて、器量のええの(よいのを) えらぶ人をなあ あの子 嫁ん(に) 貰うかてや(と云えば) あや(彼女は) へちややたら(不器量とか) 言うて選ぶのを メンクイや(だ) 言うてなあ。器量好みする言うのなあ(です) メンクイや(だ) 言うて。

めんしよ **【名詞】** 立派。綺麗。大変な。めいしよ参照 名所の転訛、転義(方言俗語語源辞典)(志(布施田、片田)) [会話] メンシヨやなあ(だ) 言うねよって(言うのだから)、めいしよ言わんと(言わずに) メンシヨやなあ(だ) 言うて。

めんしよな 立派な。有り得ない。(志) [会話] 綺麗な事を おおた めんしよやなあ(だ) 言うて メンシヨ言うね(言います) 綺麗やなあ(だ) 美しなあ言う事を めんしよやなあ おおた みんな(皆) そるて(揃って) メンシヨナよお(のようだ) 見よまあ(見なさい) 言うて 立派な事。

めんた **【名詞】** 1) 雌。(志(志島、磯部、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(桃取、国崎)) 2) 婦女子をいやしんで言う語。(志(立神))

めんたま **【名詞】** 目玉。眼球。[会話] 目玉の事 メン タマ言うのなあ(です)。

めんちよ **【名詞】** 女陰。[会話] おなご(女) のもん(物) を メンチョや(だ) 言うてなあ お前ら メンチョな(が) 痒いねえかい(無いか) 言うて、わしや(私は) メンチョな(が) 痒いね(のだ) 言うて。見たや(見たら)、たむしな(が) 出来とんね(出来ているのだ) 言うて メンチョ言うのは おなご(女) の道具。

めんちよお(めんちょう、めんちやう) (面疔) **【名詞】** 顔に出来る腫物。[会話] 顔い(へ) 出来るできもん(出来物) メンチョオや(だ) 言うてなあ 疔な(が) 顔い(へ) 出来ると メンチョオな(が) 出来て言うてなあ。

めんつ **【名詞】** うつかりかさご。カサゴ属、体色は桃色で時には頭頂部に緑色斑点が有る。胸鰭は一般に19軟條で不分岐、鱗條は肥厚しない。鱗細は一般に多い。体長37cm位になる。[会話] メンツのめえ(目) で とぶれとんねなあ(飛び出ているのだ) 言うて、魚のめえ(目) の こげん(こんなにも) おつきい

のな (大きいのが) 有るやんかい (有ります)。メンツのめえ (目) で とぶれとんない (飛び出ている) 言うて。

めんてえ (めんてい) 【名詞】 面体 顔つき 顔の形 (上、阿)

めんど 【名詞】 【形容詞】 面倒。するのがわずらわしいこと。わずらわしん感じること。世話。厄介。困ったこと。(志、松、多、伊、尾、南) [会話] 面倒言うておまで言わんと (言わずに) メンド言うて、メンドみんね (見るのだ) 言うて。まあ おらな (俺が) あの婆の メンド見とんねない (見ているのだ) 言うてなあ。そして 子供でも メンド見とんねない 言うて、世話しとる (している) 事を メンド見る 言うてなあ。メンド見る言うて やしのとる (養っている) 訳や (です)。おらな (俺が) 世話しとる (している) 言うのをなあ、メンド おらな (俺が) 見とんねよって (見ているのだから) 言うて。

めんどい 【形容詞】 面倒い。面倒くさい。面倒の形容詞化、面倒である。手数がかかって煩わしい。大変やつかいだ。(志 (浜島)、員、鈴市、安、松、上、阿、張名、南) [会話] ややくし (困難) 事を めんどくさい 言うて。めんどおやれ (だ) 言うたり こいなもん (こんな物) めんどおやれ (だ)。こいな (こんな) 事 したて (してしまって) メンドイ (大変な) 事 したれ (してしまつた) 言うて。困った事した言うのを メンドイ な事した、今し (今) で言うたら、困った、しごこない (仕損い、失敗) した時の事を。

めんどおな 1) 困った 難しい 2) 面倒くさい

めんどおなもんや (めんどうなもんや) 困ったことだ。[会話] メンドオナモンヤ言うのは 失敗したた (してしまつた) 事。困った事 したた なあ言うのをなあ、おおたまあ めんどおな事したもんやなあ (してしまつた) 言うて その時や (は) 引つ張んのなあ (るのです) めんどお 言うて。

めんどおや (めんどうや) 1) 困った 大変だ 2) 面倒だ

めんどかける 人に厄介をかける。面倒なことでの世話になる。

めんどかし 面倒だ (志 (布施田、立神))

めんどくさい 面倒くさい。めんどいと同じ。(志、員、南) [会話] メンドクサイ。邪魔臭い。此れせえ (しなさい) 言うても メンドクサイ。

めんどみる 1) 世話をする。2) 扶養する。[会話] 1) メンドミル言うのは 世話 する。

めんどり 【名詞】 雌鶏 (志 (国府、鶴方、越賀、浜島)、鳥 (坂手、神島、答志))

めんどり 【名詞】 魚名。ひめじ。ひめじ科の魚。下顎に一对の黄色い長い味覚に敏感なひげが有る。(志、北、南、熊) [会話] メンドリ 言う魚な (です)。あつかいのなあ (赤いのです)。きつね (魚名) ん (に) よお (よく) 似たの (のを)。

めんどり 【名詞】 宴席などで歌の歌えない者

めんめ 【代名詞】 面々。めんめんの転。自分。自分自身。各人。各人一人一人。めいめいぜん参照 (志 (志島)、鳥、鈴市、安、津、多、上、阿、度、伊、北、南)

めんめこ 【名詞】 各人 一人一人 各自勝手に (志、鳥)

めんめに 各自それぞれに

めんめん 【名詞】 【形容詞】 各自。銘々。(志 (布施田)、張、南) [会話] なんかしよおや (なにかしましよ) 言うて、仲間で しよおやんか (しましよ) 言うても、まあ そいな (そんな) 事せんと (せずに) メンメンすやええない (すればよろしい) 言うて 別々に すやええ 言うのをなあ、メンメンココにすやええ ない ややくしのん (面倒なのに) そげん (そんなに) 一緒ん (に) せんと (せずに) 言うてなあ。メンメン メンメンコ 言う人と メンメンコ 言う時と メンメンコロビ 言う時も有るしなあ。別々ん (に) しよおや (しましよ) 言うのをなあ メンメンココに しよおや 言うて 別々も メンメンココも 一緒やけどなあ (です)。

めんめん 【名詞】 米、飯 幼児詞

めんめんこ 各人に。各自勝手に。自分の思う様に。めんめん参照 (阿、張)

めんめんこお 各自に。めんめん参照

めんめんこおじ 各自一人一人ですること。別々にすること。めいめいぜん参照 [会話] メンメンココ じに しよおやんか (しましよ) 言うて 別々に しよおや (しましよ) 言う事を。

めんめんころび 各人一人一人自分の思う様にすること。各人各様に。自分の思う様に。めんめん参照 [会話] メンメンコロビ 言うて わが (自分) おもいおもい の事を すんのをな (するのを) 別々のことを すんのなあ (するのです)。メンメンコロビ で まあ やろや (しましよ) 言うてな。おもいおもいと 一緒や (です) 意味は、何ん (何に) こさえたて (作っても) メンメンコロビ で、わがとばっか (自分ばかり) 食うてとか言うてな。わがと (自分) こさえたもな (作っ

た物は わがと (自分) 食うて、ひとんも (人にも)
やらんと (やらずに) すると、メンメンコロビで わ
がと こさえたもん わがとくうて そやよって (だ
から) おらも (俺も) わがとこさえて 食わな (食べ
なければ) 言うの (のを) メンメンコロビ言うのな
(です)。

めんめんぜん【名詞】一人一人につく膳。めいめいぜん
に同じ。一人前に分けた料理。[会話] 結婚式やなん
かの (とかの) 時 一人前ずつの 膳部のつくの (の
を) メンメンゼン言うなあ (言います)。

めんめんに 各人一人一人。自分の思う様に。